

令和3年度

事業実績報告書

学校法人 佐保会学園

奈良佐保短期大学

附属生駒幼稚園

認定こども園附属河内長野幼稚園

附属倉敷幼稚園

# 令和3年度に係る事業の実績報告

奈良市鹿野園町 806  
学校法人 佐保会学園

<b>I 法人の概要等</b>	3
1. 法人の目的	3
2. 既設校の内容	3
3. 法人等の沿革	3
4. 歴代理事長、学長及び園長	5
(1) 理事長	5
(2) 学長	5
(3) 園長	5
5. 奈良佐保短期大学名誉教授	6
6. 運営・組織機構（主たる業務・分掌を含む）	6 (67)
7. 役員	6
8. 理事会、評議員会の開催状況	7
(1) 理事会	7
(令和2年度)	7
(令和3年度)	7
(2) 評議員会	8
(令和2年度)	8
(令和3年度)	9
9. 役職員	9
(1) 法人本部	9
(2) 奈良佐保短期大学	9
(3) 附属幼稚園	10
10. 職員数	10
・教員等の現員	10
11. 附属図書館	11
(1) 図書及び雑誌	11
(2) サービス状況	11
12. 外部資金	12
科学研究費補助金	12
<b>II 財務の概要</b>	12
1. 監事の監査状況と監査内容	12
2. 公認会計士の監査状況	13
3. 貸借対照表の要約	13
4. 財産目録の要約	14
5. 資金収支・事業活動収支の要約	15
(1) 資金収支決算	15
(2) 事業活動収支決算	16
(3) 教育研究経費比率	17
6. 土地建物	17

<b>Ⅲ 事業の概要</b> .....	18
1・奈良佐保短期大学 .....	18
2・附属生駒幼稚園 .....	56
3・認定こども園附属河内長野幼稚園 .....	60
4・附属倉敷幼稚園 .....	63

## 学校法人 佐保会学園 令和3年度に係る事業の実績報告

### I 法人の概要等

#### 1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、教養高く、かつ、専門的、職業的能力を有する優れた人材を育成することを目的とする。

#### 2. 既設校の内容

法人の名称：学校法人佐保会学園		事務所の所在地：奈良市鹿野園町806		
学校名	学科・課程名（修業年限）	開設年度	入学定員 (人)	収容定員 (人)
奈良佐保短期大学	生活未来科（2年） 生活福祉コース 食物栄養コース ビジネスキャリアコース	平21	80	160
	地域こども学科（2年） こども教育コース こども保育コース	平22	100	200
	日本語教育別科（1年）	平22	20	20
附属生駒幼稚園	} 5歳児（1年保育） 4歳児（2年保育） 3歳児（3年保育）	昭52		220
認定こども園		昭49		60
附属河内長野幼稚園		昭51		115
附属倉敷幼稚園				

所在地	奈良佐保短期大学	奈良市鹿野園町 806
	附属生駒幼稚園	生駒市鹿ノ台南2-12
	認定こども園	
	附属河内長野幼稚園	河内長野市大矢船中町10-1
	附属倉敷幼稚園	倉敷市徳芳869-116

#### 3. 法人等の沿革

昭和6年 4月 1日	奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大学）同窓会佐保会によって各種学校佐保女学院（奈良佐保短期大学の前身）が開設される
昭和40年 1月 25日	学校法人佐保会学園設立の認可を受ける
昭和40年 1月 25日	佐保女学院短期大学設置の認可を受ける
昭和40年 4月 1日	同短期大学開設（家政科入学定員100名）する
昭和40年 12月 3日	1号館 竣工
昭和42年 3月 21日	2号館 竣工
昭和42年 3月 23日	栄養士養成課程（入学定員50名）設置の認可を受ける
昭和42年 4月 1日	家政科を家政専攻（入学定員100名）と食物栄養専攻（入学定員50名）に変更する
昭和42年 4月 1日	栄養士養成課程を開設する
昭和43年 7月 29日	佐保女学院短期大学を奈良佐保女学院短期大学と校名変更の認可を受ける

昭和48年	2月	4日	初等教育学科の設置の認可を受ける（入学定員50名）
昭和48年	2月	4日	家政科を家政学科と学科名の変更の認可を受ける
昭和48年	2月	4日	家政学科の入学定員を家政学専攻50名、食物栄養専攻50名計100名に変更の認可を受ける
昭和48年	3月	31日	3号館、4号館 竣工
昭和48年	4月	1日	初等教育学科（入学定員50名）を開設する
昭和49年	3月	8日	学校法人佐保学園河内長野佐保幼稚園設置認可を受ける（大阪府）
昭和49年	4月	1日	同幼稚園開設（入園定員120名）
昭和51年	2月	12日	初等教育学科の入学定員を100名に増員の認可を受ける
昭和51年	2月	12日	家政学科の入学定員を100名に増員の認可を受ける
昭和51年	3月	25日	5号館 竣工
昭和51年	12月	11日	学校法人佐保学園倉敷佐保幼稚園設置認可を受ける（岡山県）
昭和51年	4月	1日	同幼稚園開設（入園定員80名）
昭和52年	4月	12日	学校法人佐保学園生駒佐保幼稚園設置認可を受ける（奈良県）
昭和52年	9月	1日	同幼稚園開設（入園定員200名）
昭和54年	4月	30日	体育館 竣工
昭和58年	3月	31日	奈良県認可の学校法人佐保学園に河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園を吸収合併の認可を受ける
昭和60年	12月	25日	家政学科家政専攻の入学定員を100名に、初等教育学科の入学定員を150名に増加認可を受ける
昭和60年	12月	25日	家政学科家政専攻の入学定員を100名の臨時増員の認可を受ける（期間 昭和61年4月1日～平成12年3月31日）
昭和63年	1月	29日	家政学科を生活科学科と学科名を変更する 家政専攻を生活科学専攻と専攻名の変更の認可を受ける
平成 2年	3月	31日	6号館 竣工
平成 4年	8月	31日	学校法人佐保会学園が学校法人佐保学園を合併する認可を受ける
平成 5年	4月	1日	生駒佐保幼稚園、河内長野佐保幼稚園及び倉敷佐保幼稚園をそれぞれ奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同附属河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園とする
平成11年	4月	1日	生活科学科生活科学専攻を分離し、生活福祉専攻（介護福祉養成施設等指定）を設置する生活科学専攻の恒常的入学定員を40名減じ、生活福祉専攻の入学定員を60名とする
平成12年	3月	31日	生活科学科生活科学専攻の入学定員100名の臨時増員を廃止減員する
平成13年	4月	1日	奈良佐保女学院短期大学を奈良佐保短期大学に、奈良佐保女学院短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園を奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園、同河内長野幼稚園及び同倉敷幼稚園に名称変更を行うとともに、奈良佐保短期大学にあっては受入学生を男女共学とする
平成13年	4月	1日	初等教育学科を幼児教育科と学科名を変更する
平成14年	4月	1日	生活科学科生活科学専攻を廃止する
平成15年	4月	1日	専攻科（福祉専攻：定員30名）を設置する
平成16年	11月	8日	自己点検評価室を設置する
平成17年	4月	1日	情報メディアセンターを設置する
平成19年	9月	28日	生活科学科生活福祉専攻入学定員を10名減じ50名とし、幼児教育科入学定員を130名に増加認可（平成20年度～）を受ける
平成19年	10月	17日	附属倉敷幼稚園の入園定員を25名増し105名に増加認可（平成20年度～）を受ける

平成20年	4月	1日	生涯学習教育センターを設置する
平成21年	4月	1日	生活科学科を生活未来科と学科名を変更する 生活未来科は専攻課程を廃止し、入学定員を100名とする。
平成22年	3月	10日	中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協定書締結
平成22年	4月	1日	幼児教育科を地域こども学科と学科名を変更し、入学定員を100名とする 日本語教育別科（定員20名）を設置する
平成23年	3月	31日	7号館 竣工
平成23年	4月	1日	キャリア支援センターを設置する
平成23年	9月		中華人民共和国大連大学との交流に関する協定書締結
平成24年	4月	1日	地域共生センターを設置する（生涯学習教育センターを廃止する）
平成27年	4月	1日	地域・国際連携センターを設置する（地域共生センターを廃止する。） 附属倉敷幼稚園の入園定員を10名増し115名に増加認可を受ける 附属河内長野幼稚園を認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園（利用定員60名） としての認可を受ける
平成28年	3月	31日	専攻科（福祉専攻：定員30名）を廃止する
令和2年	4月	1日	生活未来科入学定員を20名減じ80名とする

#### 4. 歴代理事長、学長及び園長

##### (1) 理事長

	長谷川 千鶴	昭和40年	4月	1日	～平成13年	3月	31日
	梶田 武俊	平成13年	4月	1日	～平成17年	7月	31日
	丹羽 雅子	平成17年	8月	1日	～平成18年	11月	11日
(代行)	生駒 節子	平成18年	11月	12日	～平成18年	12月	16日
	奥村 晶子	平成18年	12月	17日	～平成25年	7月	31日
(代行)	大石 正	平成19年	10月	7日	～平成19年	10月	22日
(代行)	馬越 かよ子	平成25年	8月	1日	～平成25年	8月	10日
	榎 和子	平成25年	8月	11日	～平成29年	7月	31日
	馬越 かよ子	平成29年	8月	1日	～（現在に至る）		

##### (2) 学長

###### (昭和40年4月から平成13年3月まで奈良佐保女学院短期大学)

	波多腰 ヤス	昭和40年	4月	1日	～昭和47年	6月	8日
(代行)	近 末 貢	昭和47年	6月	8日	～昭和48年	7月	31日
	宮本 富美	昭和48年	8月	1日	～平成6年	6月	30日
	菅沼 美子	平成6年	7月	1日	～平成12年	3月	31日
(代行)	梶田 武俊	平成11年	10月	1日	～平成12年	3月	31日
	梶田 武俊	平成12年	4月	1日	～平成14年	3月	31日

###### (平成13年4月から奈良佐保短期大学)

	梶田 武俊	平成14年	4月	1日	～平成18年	3月	31日
	大石 正	平成18年	4月	1日	～平成24年	3月	31日
	馬越 かよ子	平成24年	4月	1日	～令和3年	3月	31日
	池内 ますみ	令和3年	4月	1日	～（現在に至る）		

##### (3) 園長

附属生駒幼稚園

(昭和52年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 生駒佐保幼稚園)

有馬 タツエ 昭和51年 4月 1日～平成 4年 3月31日  
藤井 智加子 平成 4年 4月 1日～平成 5年 3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園)

藤井 智加子 平成 5年 4月 1日～平成24年 3月31日  
奥畑 栄一 平成24年 4月 1日～平成27年 3月31日  
片岡 三和 平成27年 4月 1日～令和 3年 3月31日  
福田 幹子 令和 3年 4月 1日～(現在に至る)

#### 認定こども園附属河内長野幼稚園

(昭和49年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 河内長野佐保幼稚園)

村上 尉代 昭和49年 4月 1日～昭和50年 3月31日  
今市 良子 昭和50年 4月 1日～平成 5年3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)

今市 良子 平成 5年 4月 1日～平成14年3月31日  
中村 裕子 平成14年 4月 1日～平成27年3月31日

(平成27年4月から認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園)

中村 裕子 平成27年 4月 1日～(現在に至る)

#### 附属倉敷幼稚園

(昭和51年4月から平成5年3月まで学校法人佐保学園 倉敷佐保幼稚園)

中村 淑 昭和51年 4月 1日～昭和53年 9月14日  
長坂 淳子 昭和53年 9月15日～昭和61年 8月31日  
本田 慧 昭和61年 9月 1日～平成 5年 3月31日

(平成5年4月から奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園)

本田 慧 平成 5年 4月 1日～平成 7年 8月31日  
竹内 一二美 平成 7年 9月 1日～平成10年 3月31日  
本田 慧 平成10年 4月 1日～平成15年 7月31日  
橋爪 操 平成15年 8月 1日～(現在に至る)

### 5. 奈良佐保短期大学名誉教授

菅沼美子 栄利秋 戸口 勉 松井静子 梶田武俊 南園節教  
大石 正 矢和多多姫子 中村妙子 馬越かよ子 宮川久美

### 6. 運営・組織機構 (主たる業務・分掌を含む)

(別記 67頁)

### 7. 役員

(令和3年5月1日現在)

理事長 馬越 かよ子  
理事 池内 ますみ 勝田 麻津子 倉田 清 栗岡 隆顕  
野口 哲子 疋田 洋子 平井 タカネ 本田 元子 馬越 かよ子  
松尾 欣枝 森 永 夕美  
監事 久米 健次 山川 明子  
評議員 池内 ますみ 岡田 伸子 勝田 麻津子 川崎 和子 北口 照美  
倉田 清 栗岡 隆顕 久留島 涼子 西藤 栄子 島村 知歩

高橋 世知子	中村 裕子	野口 哲子	橋爪 操	疋田 洋子
平井 タカネ	福田 幹子	福田 満代	本田 元子	馬越 かよ子
松尾 欣枝	水上 戴子	宮城 智子	森 永夕美	森本 伊津子

## 8. 理事会、評議員会の開催状況

### (1) 理事会

開催日	審議事項
(令和2年度)	
令和2年5月23日	令和元年度（2019年度）事業実績報告について 令和元年度（2019年度）決算について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園則（運営規程）の一部改正について 奈良佐保短期大学名誉教授称号授与について 奈良佐保短期大学教員人事について 大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保に係る補助金の申請について
令和2年7月18日	奈良佐保短期大学学長選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長選考について 「学校法人向け役員賠償責任保険」への加入について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園「子どもの家」について
令和2年9月19日	奈良佐保短期大学学則の一部改正について 学校法人佐保会学園所有地の一部売買契約について 奈良佐保短期大学教員人事について
令和2年10月24日	学校法人佐保会学園理事・監事並びに評議員の交代について 奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行について
令和2年11月21日	奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長候補者の選考について PCB廃棄物処理について 学生支援情報システムの導入について
令和3年1月30日	奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について 令和2年度補正予算について
令和3年3月20日	令和3年度事業計画について 令和3年度当初予算について 理事及び評議員の交代について 理事長職務の代理者の選任について 奈良佐保短期大学教員人事について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の園則改正について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の運営規程の制定について 奈良佐保短期大学奨学金（長期貸付金）債権の放棄について
(令和3年度)	
令和3年4月1日	理事長の選任について
令和3年6月19日	令和2年度（2020年度）事業実績報告について 令和2年度（2020年度）決算について



	奈良佐保短期大学名誉教授称号授与について
	理事・監事並びに評議員候補者の選任について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園（増築棟）外壁改修工事について
令和3年7月17日	理事、監事並びに評議員の選任について
	理事長の選任について
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長選考について
令和3年9月19日	学校法人佐保会学園経営改善計画策定について
	奈良佐保短期大学学則の一部改正について
	学校法人佐保会学園組織規程の一部改正について
	奈良佐保短期大学「ガバナンス・コード」の策定について
	奈良佐保短期大学公的研究費管理等規程の一部改正について
令和3年12月18日	奈良佐保短期大学学則の一部改正について
	奈良佐保短期大学奨学生規程の一部改正について
	奈良佐保短期大学授業料特別免除規程の一部改正について
	奈良佐保短期大学外国人留学生授業料等減免規程の一部改正について
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長候補者の選考について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園複合遊具の購入について
	奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について
	学校法人佐保会学園所有地の一部売買について
令和4年3月2日	令和3年度補正予算について
	奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る処遇改善臨時特例事業貸金改善の支給について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園に係る「処遇改善等加算Ⅱ」の支給について
	奈良佐保短期大学教員人事について
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園則の一部改正について
	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園運営規程の一部改正について
	奈良佐保短期大学ネットワーク機器購入について
	認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園複合遊具購入について
令和4年3月19日	令和4年度事業計画について
	令和4年度当初予算について
	評議員の交代について

## (2) 評議員会

開催日	諮問事項
(令和2年度)	
令和2年5月23日	令和元年度（2019年度）事業実績報告について 令和元年度（2019年度）決算について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行について
令和2年7月18日	奈良佐保短期大学学長選考について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園園長選考について 「学校法人向け役員賠償責任保険」への加入について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園「子どもの家」について

令和2年10月24日	学校法人佐保会学園理事、監事並びに評議員の交代について
令和3年1月30日	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の新制度への移行について 奈良佐保短期大学学長候補者の選考について 令和2年度補正予算について
令和3年3月20日	奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について 令和3年度事業計画について 令和3年度当初予算について 理事及び評議員の交代について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の園則改正について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の運営規程の制定について 奈良佐保短期大学奨学金（長期貸付金）債権の放棄について
(令和3年度)	
令和3年6月19日	令和2年度（2020年度）事業実績報告について 令和2年度（2020年度）決算について 理事・監事並びに評議員候補者の選任について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園（増築棟）外壁改修工事について
令和3年7月17日	理事・監事及び評議員の選任について 認定こども園奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園園長選考について
令和3年12月18日	奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学奨学生規程の一部改正について 奈良佐保短期大学授業料特別免除規程の一部改正について 奈良佐保短期大学外国人留学生授業料等減免規程の一部改正について 奈良佐保短期大学ガバナンス・コード及び学校法人佐保会学園経営改善計画について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園複合遊具の購入について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る施設関係者評価委員の選任について 学校法人佐保会学園所有地の一部売買について
令和4年3月2日	令和3年度補正予算について 奈良佐保短期大学附属各幼稚園に係る処遇改善臨時特例事業賃金改善の支給について 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園に係る「処遇改善等加算II」の支給について
令和4年3月19日	令和4年度事業計画について 令和4年度当初予算について 評議員の交代について

## 9. 役職員

(令和3年5月1日現在)

### (1) 法人本部

理事長	馬 越 かよ子
法人本部長	倉 田 清
事務室長	上 山 潔

### (2) 奈良佐保短期大学

学 長	池 内 ますみ
-----	---------

副学長	森 永 夕 美
生活未来科長	島 村 知 歩
生活福祉コース長	武 田 千 幸
食物栄養コース長 (併)	島 村 知 歩
ビジネス・キャリアコース長	吉 村 司
地域こども学科長	勝 田 麻津子
こども保育コース長	吉 田 直 子
こども教育コース長	大 石 祥 寛
日本語教育別科長 (併)	武 田 千 幸
事務局 長	倉 田 清
総務部 長	藤 本 友 宏
教育支援センター長 (併)	森 永 夕 美
副センター長	江 本 友 規 子
副センター長	菅 田 知 栄
入試・広報センター長	木 田 一 芳
副センター長	杉 原 麻 起
学生・キャリア支援センター長	井 関 二三夫
副センター長	俵本谷 仁 美
副センター長	高 屋 有 加
附属図書館長 (併)	森 永 夕 美
情報メディアセンター長	阪 口 弘
副センター長 (併)	中 田 奈 月
I R推進室長 (併)	中 田 奈 月
地域・国際連携センター長 (併)	杉 原 麻 起
副センター長 (併)	木 田 一 芳
自己点検評価室長 (併)	中 田 奈 月
副室長 (併)	樹 下 堅

### (3) 附属幼稚園

生駒幼稚園長	福 田 幹 子
主任	貞 佳 子
副主任	赤 枝 幸 恵
認定こども園河内長野幼稚園長	中 村 裕 子
副園長	中 野 朝 美
倉敷幼稚園長	橋 爪 操
主任	山 地 麻 美

## 10. 職員数

### ・教員等の現員

(各年5月1日現在) 単位：人

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	備 考
<b>短期大学</b>	<b>46 (53)</b>	<b>47 (50)</b>	<b>44 (50)</b>	<b>49 (49)</b>	<b>46 (43)</b>	
学長	1	1	1	1	1	
副学長	1	1	1	1	1	
教授	10	10	12	10	9	
准教授	3	2	1	4	4	
講師	9	11	9	12	10	
助教・助手	3	3	4	4	4	
その他の職員	19	19	16	17	18	
<b>幼稚園</b>	<b>31 (7)</b>	<b>31 (6)</b>	<b>31 (9)</b>	<b>34 (10)</b>	<b>38 (10)</b>	
生駒幼稚園	16 (2)	15 (1)	15 (3)	15 (4)	16 (4)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	14 (2)	13 (1)	13 (3)	13 (4)	14 (4)	
その他の職員	1	1	1	1	1	
河内長野幼稚園	9 (2)	9 (2)	9 (3)	9 (3)	9 (3)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	8 (2)	8 (2)	8 (3)	8 (3)	8 (3)	
その他の職員	0	0	0	0	0	
倉敷幼稚園	6 (3)	7 (3)	7 (3)	10 (3)	10 (3)	
園長	1	1	1	1	1	
教諭	4 (3)	5 (3)	5 (3)	7 (3)	7 (3)	
その他の職員	1	1	1	2	2	

注：( ) 内は非常勤を示す

## 11. 附属図書館

### (1) 図書及び雑誌

(令和3年度末現在)

区 分	国内書	外国書	計	備 考
一 般 図 書	18,291冊	517冊	18,808冊	
専 門 図 書	37,230冊	1,011冊	38,241冊	
学術雑誌・その他	1,798冊	44冊	1,842冊	

### (2) サービス状況

#### 入館者数・貸し出し者数・冊数

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入 館 者 数	14,788人	15,091人	15,816人	10,351人	12,486人
貸し出し者数	1,776人	1,673人	1,689人	1,477人	1,427人
貸し出し冊数	4,829冊	4,871冊	4,804冊	4,323冊	4,228冊

## 文献複写件数

### 学内・学外からの受付件数

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学内からの受付	53件	72件	292件	83件	70件
学外からの受付	1件	0件	1件	2件	4件
外部へ依頼	104件	10件	7件	4件	12件

## 図書館間相互貸借

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
貸 出	0件	0件	1件	2件	0件
借 受	3件	1件	3件	2件	1件

## 12. 外部資金

### 科学研究費補助金

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
基盤研究	— 件	— 件	— 件	1件	0件
(C)	— 円	— 円	— 円	1,700,000円	0円
若手研究	— 件	— 件	1件	1件	0件
(B)	— 円	— 円	800,000円	900,000円	0円

## II 財務の概要

### 1. 監事の監査状況と監査内容

#### 令和2年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和3年5月21日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和3年5月21日

（互いに監査結果を照合し、意見交換を行う）

結 果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

#### 令和3年度決算分

財産状況の監査（決算・期中監査）

実施日 令和4年5月20日（決算・期中）

対象分野・事項

（決算関係：収支決算書に基づき元帳、証拠書類を閲覧突合しながら監査を行う）

（期中関係：学生納付金等収入金関係及び人件費関係の支出、施設関係の土地及び建物関係の監査を行う）

監査結果（指摘事項なし）

公認会計士との連携の状況

実施日 令和4年5月20日

（互いに監査結果を照合し、意見交換を行う）

結 果 財産状況、理事の業務執行状況についての理事への意見具申 なし

## 2. 公認会計士の監査状況

2 年	2月17日・18日	期中監査（幼稚園監査を含む）
”	4月3日	期末監査及び現金・預金証書等実査
”	5月11日・12日	決算監査
”	5月20日・21日	決算監査
”	5月28日・29日	決算監査
”	9月8日・9日	監査計画・期中監査
”	12月1日・2日	期中監査（幼稚園監査を含む）
3 年	2月15日・16日	期中監査（幼稚園監査を含む）
”	4月5日	期末監査及び現金・預金証書等実査
”	5月19日～21日	決算監査
”	6月3日・4日	決算監査
”	9月2日・3日	監査計画・期中監査
”	12月13日・14日	期中監査
4 年	2月24日・25日	期中監査（幼稚園監査を含む）
”	4月7日	期末監査及び現金・預金証書等実査
”	5月18日～20日	決算監査
”	5月26日・27日	決算監査

## 3. 貸借対照表の要約

資産の部

単位円

科 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
固定資産	2,125,703,161	2,092,706,486	2,037,561,889	2,002,491,955
有形固定資産	1,920,963,053	1,887,966,378	1,832,813,381	1,797,743,447
その他の固定資産	204,740,108	204,740,108	204,748,508	204,748,508
流動資産	1,129,262,317	1,095,428,631	1,084,104,029	1,023,640,113
資産の部合計	3,254,965,478	3,188,135,117	3,121,665,918	3,026,132,068

## 4. 財産目録の要約

単位円

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
資産総額	3,254,965,478	3,188,135,117	3,121,665,918	3,026,132,068
基本財産	2,125,703,161	2,092,706,486	2,037,561,889	2,002,491,955
運用財産	1,129,262,317	1,095,428,631	1,084,104,029	1,023,640,113
負債総額	317,875,116	320,212,590	305,948,625	271,245,623
正味財産	2,937,090,362	2,867,922,527	2,815,717,293	2,754,886,445
資産				
基本財産				
(イ)土地	917,362,439	917,362,439	917,362,439	917,329,677
(ロ)建物	797,459,639	761,091,028	714,000,152	681,703,073
建物	689,204,226	658,090,188	624,172,372	594,380,915
建物付属設備	93,944,330	90,589,487	78,403,277	70,731,098
構築物	14,311,083	12,411,353	11,424,503	16,591,060
(ハ)図書	169,000,741	168,194,444	165,237,407	160,497,281
(ニ)教具、校具、備品 及び標本	37,102,644	41,299,666	35,159,431	37,407,456
(ホ)その他の固定資産	204,740,108	204,740,108	204,748,508	204,748,508
運用資産				
(イ)預金、現金	1,066,907,275	1,048,365,400	978,237,897	915,798,551
預金	1,065,978,122	1,047,490,549	977,418,398	915,088,138
現金	929,153	874,851	819,499	710,413
(ロ)積立金	0	0	0	0
(ハ)不動産	0	0	0	0
(ニ)貯蔵品	0	0	0	0
(ホ)未収入金	61,461,967	45,786,200	93,887,729	107,698,301
(ハ)前払金	893,075	1,277,031	11,978,403	143,261
負債				
固定負債				
(イ)退職引当金	193,698,940	184,491,596	177,316,346	173,110,160
(ロ)長期未払金	12,918,528	20,030,036	13,177,316	6,324,596
流動負債	111,257,648	115,690,958	115,454,963	91,810,867
(イ)未払金	28,809,471	32,142,561	26,791,852	24,395,343
(ロ)前受金	63,797,000	67,477,000	66,995,000	53,249,000
(ハ)預り金	18,651,177	16,071,397	21,668,111	14,166,524

## 5. 資金収支・事業活動収支決算の要約

### (1) 資金収支決算

#### 収入の部

単位円

科 目	30年度決算額	元年度決算額	2年度決算額	3年度決算額
学生生徒等納付金収入	326,856,469	289,826,547	284,279,724	240,575,386
手数料収入	3,137,150	3,118,500	2,608,900	4,694,700
寄付金収入	4,194,000	3,740,010	3,391,270	5,030,000
補助金収入	222,253,656	204,915,030	289,083,108	332,747,756
資産運用収入	1,247,111	1,246,846	1,754,648	1,669,756
資産売却収入	0	0	0	2,123,350
事業収入	69,911,419	89,733,153	90,272,414	91,963,701
雑収入	37,330,406	30,849,716	40,953,141	30,345,991
前受金収入	63,797,000	67,477,000	66,995,000	53,249,000
その他の収入	327,349,966	263,368,367	226,432,093	258,102,894
資金収入調整勘定	△128,679,967	△109,583,200	△161,364,729	△174,693,301
前年度繰越支払資金	1,052,931,877	1,066,907,275	1,048,365,400	978,237,897
収入の部合計	1,980,329,087	1,911,599,244	1,892,770,969	1,824,047,130

#### 支出の部

単位円

科 目	30年度決算額	元年度決算額	2年度決算額	3年度決算額
人件費支出	459,072,847	455,855,971	488,985,007	467,485,112
教育研究経費支出	118,504,467	114,690,557	141,990,844	161,150,588
管理経費支出	72,516,295	68,225,070	71,459,370	80,936,702
施設関係支出	24,125,040	12,563,382	4,078,450	15,815,270
設備関係支出	5,556,755	17,473,326	10,065,421	13,730,068
資産運用支出	0	0	0	0
その他の支出	275,625,607	234,572,682	219,170,143	198,651,865
資金支出調整勘定	△41,979,199	△40,147,144	△21,216,163	△29,521,026
次年度繰越支払資金	1,066,907,275	1,048,365,400	978,237,897	915,798,551
支出の部合計	1,980,329,087	1,911,599,244	1,892,770,969	1,824,047,130



## (2) 事業活動収支決算

単位円

区 分	科 目	3年度決算額	
教育活動収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	240,575,386
		手数料	4,694,700
		寄付金	2,130,000
		経常費等補助金	332,747,756
		付随事業収入	91,963,701
		雑収入	30,345,991
		教育活動収入計	702,457,534
	事業活動 支出の部	人件費	463,278,926
		教育研究経費	207,318,242
		管理経費	92,878,301
教育活動支出計		763,475,469	
教育活動収支差額		△61,017,935	
教育活動外収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	1,669,756
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	1,669,756
	教育活動外収支差額		1,669,756
経常収支差額		△59,348,179	
特別収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	2,090,587
		その他の特別収入	2,900,000
		特別収入計	4,990,587
	事業活動 支出の部	資産処分差額	6,473,256
		その他の特別支出	0
		特別支出計	6,473,256
特別収支差額		△1,482,669	
基本金組入前当年度収支差額		△60,830,848	
基本金組入額合計		△36,398,058	
当年度収支差額		△97,228,906	
前年度繰越収支差額		△1,582,169,106	
基本金取崩額		17,951,694	
翌年度繰越収支差額		△1,661,446,318	
事業活動収入計		709,117,877	
事業活動支出計		769,948,725	

## (3) 教育研究経費比率

(教育研究経費比率(%))=教育研究経費支出÷帰属収入×100)

学校法人佐保会学園(全体)

単位円

区分	帰属収入合計	教育研究経費支出	教育研究経費比率%
平成30年度	665,130,211	166,984,071	0.251
令和元年度	624,261,146	162,130,695	0.259
令和2年度	712,343,205	191,024,794	0.268
令和3年度	709,117,877	207,318,242	0.292

## 6. 土地建物

単位㎡

区分	土地	建物延面積	備考
短期大学	34,730	11,145	借地合計：3,505㎡
校舎・講堂・体育施設	12,262	10,729	
屋外運動場	17,812	—	
その他	4,627.3	416	
附属生駒幼稚園	3,811	1,532	
建物敷地等	2,845	1,532	
屋外運動場等	966	—	
附属河内長野幼稚園	1,824	695	
建物等	1,274	695	
屋外運動場等	550	—	
附属倉敷幼稚園	3,028	574	
建物敷地等	1,389	574	
屋外運動場	1,639	—	
合計	43,394	13,946	

## II 事業の概要等

### 1. 奈良佐保短期大学

#### 1. 教育、研究等に関する事業

##### (1) 生活未来科

##### (ア) 入学前体験授業の実施 継続（平成 23 年度～）

令和 3 年 12 月 26 日（日）10：30～11：30 に「入学前体験プログラム 第 1 回入学前体験授業」を実施した。今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため、合同での体験授業ではなくオンラインで Google Meet を使ってコース別に実施した。

9 月・10 月・11 月の合格者に対し、QR コード付きの案内状を送付し Google フォームにアクセスしてもらい出欠確認を行った。そして入学予定者（生活福祉コース 8 名、ビジネスキャリアコース 8 名、食物栄養コース 18 名（内 1 名欠席））に向けて Google Meet の会議室コードを各コースから配信した。

当日は、生活福祉コースが 632 教室、ビジネスキャリアコースが研究室、食物栄養コースが 6 号館会議室からそれぞれオンラインでの体験授業を行った。入学予定者は携帯電話やパソコンなどそれぞれ個人の情報端末から受講していた。生活福祉コース、ビジネスキャリアコースは自己紹介など入学予定者も発言する機会があった。食物栄養コースは、コース教員の自己紹介はしたが、授業は講義形式で実施した。教員もオンラインの実施に慣れて、昨年よりスムーズに運営できた。（課題）

##### (イ) 生活未来科成果報告会の実施 継続（平成 23 年度～）

2 月 6 日（日）にならまちセンター市民ホールにて実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況の悪化のため、昨年同様、学内でオンライン配信により実施した。コースごとに教室（生活福祉コース 622 教室、食物栄養コース 232 教室、ビジネスキャリアコース 132 教室）に分かれ視聴し、講演会は 622 教室、学生発表は学生ホールから行った。外部者（入学予定者・実習関連施設・奈良県内高等学校・保証人）にはオンライン配信を行なった。入学予定者、保証人には事前に配信 URL を知らせた。その他の外部参加者は事前に申し込みをしてもらい、配信 URL を知らせる形をとった。ならまちセンターで実施の場合も外部者にはオンライン配信で参加してもらおう予定だったが、会場を変更したので画面に映るスライド内容が小さくなるため、配信方法を YouTube の限定公開方式から Google Meet を使用することに変更した。

当日のプログラム

タイムスケジュール	会場	内容
13：00	622 教室	開会挨拶：池内学長 司会：BC コース 1 回生 第 1 部 研修会「対人援助の奥深さとやり甲斐」 社会福祉士 植田寿之氏
14：10		休憩
14：15	学生ホール	第 2 部 成果報告会 司会：BC コース 1 回生 発表：①BC コース発表（7 名） ②生活福祉コース発表（16 名） ③食物栄養コース発表（22 名）
16：10		閉会挨拶：島村学科長

舞台発表を想定しての準備をしていたため、実演なども加え、コース内容や学びの内容がよく伝わる構成になっていた。

配信は、昨年度の反省点を活かしてリハーサルでも確認して行なったが、音が切れる、雑音が入るなど新たな問題が起り、視聴者に不快な思いをさせる場面が出てしまった。報告会終了後は Google フォームでアンケートを実施した。外部からのアンケートは 34 名の回答があった。1 回生 2 回生も終了後に Google フォームでのアンケート記入を行った。外部からは「仕事に追われていますが、講演を聞いて頑張ろうと思いました。」「各コースが取り組んでいる教育内容が良く分かりました。」「入学後のイメージがわかりました。」「ビジネス

コースでは私たちにも興味のあるそそりやすい内容の発表をしており、聞いていてもなるほどとなり面白くすぐ良かった。福祉コースでは車椅子の名前や、歩き方など分かりやすかった。食物栄養コースでは自分たちで作ることで、お互いの意見を尊重し合い、発表する力などを身につけられ、様々なことを学べるところがいいと思った。」などの感想があった。

奈良県介護人材確保対策総合支援潜在介護福祉士の再就業促進事業の補助金事業の一部として実施したため、介護福祉士養成課程の卒業生にも案内を送付した。離職者支援としての取組みとしてはもちろん卒業生の学び直しの機会にもなるので全コースの卒業生に案内できるような形にしていきたい。(課題)

(ウ) 吉本興業漫才作家によるコミュニケーション演習 (平成 28 年度～)

今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため、予定していた時期に外部からの講師を迎えることが難しかったこと、漫才という演習の実施が難しいことから中止した。

(エ) 福祉フェスタの実施 (平成 28 年度～)

コロナ禍で学外実習の内容変更や大学行事の中止により、学生が人と関わる機会が減少し、学びの機会が減っていることから、対人型の行事をできないか検討した。

そこで、各コースの学びを活かすこと、来場者を限定すること、会場を分けて小グループでの実施にすること、地域貢献にも繋がることを考え、生活福祉コース・食物栄養コースは福祉サービスを利用している方を招いての福祉交流会を、ビジネスキャリアコースは、スマホ講習会を実施した。

福祉交流会は、3施設の方を3会場(3号館・6号館会議室、レストラン)に分け、学生も3グループに分かれてそれぞれ食物栄養コースによるランチとデザートを提供、生活福祉コースによるレクリエーションを行った。スマホ講習会は学生が企画・広報・当日の運営を担当し、高齢者の方に災害時などに役立つアプリケーションの紹介などを行った。

(オ) 地域連携の強化 継続 (令和元年度～)

①地域で活躍できる専門職の育成を目標に「地域を知る」として、鹿野園周辺の地域の調査を実施し、その結果を発表報告している。「生活と未来」では学生視点で表札・玄関・ポスト・看板・柵・花など様々なものを「観察法」による調査を行い、その結果を集計し、数値化することで、鹿野園町のことを深く理解する機会になった。

②キャリアデザインでは、地域で活躍する企業の方を招き、就職活動のことから、会社運営、社員教育、困難を乗り越えるために必要なこと、一緒に働きたい人物像など多岐にわたり、経営者ディスカッションを行った。ディスカッション後は1分間スピーチで情報共有をした。

③基礎ゼミナールⅡでは、一部を3コース合同で実施した。9月27日(月)に福原稔浩氏(元近鉄広報)に『発想の転換』元近鉄名物広報マンが語るピンチをチャンスに! ロケーションサービスで学んだ発想!」をテーマに講演をいただいた。ピンチをチャンスにという発想の転換の方法だけでなく、学生の住む地域の魅力、どこをアピールしたいかなどを考える時間になった。12月20日(月)には、地元企業で働く方を招き、「企業の方と考える～生活未来科就活討論会～」をビジネスキャリアコース1回生の企画・運営により実施した。「企業が求める人材」などをテーマにグループワークを行い、情報共有した。

④7月22日(木)は「みんなの想火 in 奈良」をグラウンドで実施した。新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、外部の方も招いて実施した。全国の「自分のまちは自分で灯す」意思を持った仲間達を繋ぎ、ふるさとを想うあかり「竹あかり」を全国一斉に灯すことで世界に希望を届けるというコンセプトで行うもので、奈良県の代表として参加した。企画・運営はビジネスキャリアコース1・2回生授業「プレゼン・ビデオ編集」及び「プレゼンテーション」、竹の切り出し、竹あかりの製作は、食物栄養・ビジネスキャリアコース1回生授業「食育実践演習」、学友会でを行った。当日は、会場の様子をオンライン配信した。

(カ) その他

①ミス・パリ エステティック専門学校との連携

平成28年に連携協力に関する協定を締結したミス・パリ エステティック専門学校より特別講師を招いて、3コース共通の専門科目「生活と未来」において講義とマッサージの演習と2回の授業を実施した。昨年度は新型コロナウイルスのため実施しなかったが、今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、講義

形式の授業のみ実施し、「食と美」をテーマに講義していただいた。学生の関心は高く、授業後のリアクションシートでも96%の学生が「よくわかった・わかった」「授業内容により関心をもった・関心をもった」と回答していた。

生活未来科における教育内容等詳細については、生活未来科内各コースにおいて詳述する。

#### <生活福祉コース>

##### (ア) 学生確保のための広報活動の工夫 継続（平成24年度～）

###### ①現役の高校生に対して、模擬授業や説明会を実施した。

	行き先	担当教員
10月13日（水）	天理高校	森永
11月17日（水）	西ノ京高校	森永
11月22日（月）	磯城野高校	島村真
1月12日（水）	二階堂高校	森永
1月28日（金）	関西中央高校	武田
2月7日（月）	高取国際高校	武田

計 6回実施（前年は7回実施）

②8月31日（火）に例年実施している磯城野高校の入浴実習・介護の仕事についての説明を行った。

③奈良県社会福祉協議会・奈良県福祉人材センターの委託による「かいご『再就職』応援セミナー」の講師として招かれ（11/16・2/19）、講座終了後に本学の広報活動につなげた。

11月16日（火）は40～60歳代計6名で、介護福祉士や介護職員初任者研修等の資格所有者、無資格者がほぼ同数であった。2月19日（土）も10数名の参加があった。

④奈良県社会福祉協議会福祉人材センターと連携し、奈良県内の高等学校教諭に向けた「福祉の仕事の魅力がわかるセミナー」の講師として、養成校で学ぶことの意義について説明した。（1/31）。

##### (イ) 3つの新フィールドについての検討 継続（令2年度～）

令和3年度入学生から地域・防災福祉フィールド、介護予防フィールド、障害者福祉フィールドの3つのフィールドでの学びを進める。主に2回生時のゼミナールで学ぶことを前提に進めているが、1回生時からそれらの内容にも触れるため、外部講師に基礎ゼミナールⅡ授業内で「障害者支援の実際」について講義を依頼し実施した。今後も3つのフィールドで具体的にどのような学びを深めていくかを検討する。

##### (ウ) 国家試験対策とカリキュラムの整理 継続（平成29年度～）

###### ①カリキュラムの検討

新設科目「チームマネジメント」「防災・災害福祉」の2科目について、授業内容の検討を行い、シラバスを作成した。

###### ②国家試験対策

- a 中央法規出版の模擬試験を11月20日（土）に実施、2回生13名が受験した。その他の模擬試験を学内で4回実施した。
- b 後期の専門ゼミナール15回、介護総合演習Ⅳ15回中の2回、ほかに授業外で計10コマの国家試験対策講座を行った。
- c 留学生は日本語Ⅳ15回中の6回を国家試験対策にあてた。
- d 専門ゼミナールのClassroomを立ち上げ、計21回に渡ってGoogle formを活用した模擬問題を配信した。学生が解答後、一人ひとりに成績及び必要なコメントを返した。
- e 1月30日（日）に国家試験を13名が受験した（大阪会場：インテックス大阪）。3月25日（金）に合格発表があり9名（日本人学生3名、留学生6名）が合格した。4名（全て留学生）は不合格の結果となった。また、既卒生1名が受験したが不合格であった。その結果、奈良佐保短期大学の新卒の合格率が69.2%、既卒性を含む合格率は64.3%であった。

(エ) 介護実習の在り方の検討 継続 (平成 29 年度～)

①実習運営のあり方

例年実習に際して、専任教員が実習指導者との事前打ち合わせ・実習巡回指導・実習終了後の面談を行い、学生の実習状況の把握に努めているが、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実習施設での実習を一部行うことができなかった。

2 回生	介護実習Ⅱ (10 日間)		6/7～6/19	学内
1 回生	介護実習Ⅰ① (5 日間)		6/7～6/11	学内
2 回生	介護実習Ⅲ (20 日間)		8/18～9/16	学外実習施設
1 回生	介護実習Ⅰ② (10 日間)	6 日間	9/2～9/10	学内
		3 日間	12/23～12/25	学外実習施設
		1 日	12/28	学内
1 回生	介護実習Ⅱ (20 日間)	11 日間	2/14～3/16 (一部学生は 3/30 まで)	学内
		9 日間	次年度 6 月	学外実習施設 予定

注：斜体表記部分は次年度の予定

- 6 月の介護実習Ⅱ及び介護実習Ⅰ①では、実習施設 3 か所に依頼し ZOOM を活用して介護現場を見学し、施設職員から現場での仕事内容を話してもらった。
- 介護実習Ⅰ①では図書館と連携し「きらっと図書館講座 きらきらよ子の遊び講座」を行い「福祉施設における音楽レクリエーションの実際」について事前録画した講座内容を DVD に記録し、学内実習内で動画を視聴した。
- 介護実習Ⅲでは、実習前日に学生全員に抗原検査を実施し、陰性を確認した上で実習を開始した。
- 介護実習Ⅱでは、実習を予定していた施設から学生の人数分の事例の提供を受け、介護過程の展開を実施した。実習中盤に ZOOM を活用し施設職員へ直接質問する機会を設けた。ZOOM 対応が困難な施設については書面で質問に対する回答を得た。

②実習要綱・ルーブリック評価表の検討

- 令和 4 年度入学生向けの実習要綱の見直しを行った。また、ルーブリック評価表の作成を行った。

(オ) 事例研究発表会の実施 継続

- 「事例研究発表会」を 12 月 22 日 (水) に開催した。「介護現場における実践報告および事例研究発表会」については新型コロナウイルス感染症拡大の影響に鑑み、中止した。
- 事例研究発表会について介護実習Ⅲの実習先施設の指導者へ参加を呼びかけ、4 施設 4 名の指導者が参加した。
- 生活福祉コース 2 回生ケアワークフィールド 13 名、ソーシャルワークフィールド 1 名が発表した。
- 当日は生活福祉コース学生 32 名、学長、生活福祉コース教員 4 名、実習指導者 4 名、計 41 名の参加となった。
- 発表会の様子を Google Meet でつなぐことにより学内部署及び教職員の視聴につながった。録画したものを教職員クラスルームにアップし、オンデマンドの対応も行った。発表会を欠席した 1 回生学生も視聴することができた。

(カ) 実習施設懇談会の実施 継続 (平成 29 年度～)

実習施設の指導者等を招き実習施設懇談会を例年開催していたが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できなかった。

(キ) 介護福祉士養成施設協会 奈良県代表校 継続 (平成 31 年度～)

今年度も引き続き奈良県代表校として近畿ブロック会の ZOOM 会議に出席した。(4/27・6/14)

<食物栄養コース>

(ア) 栄養士専門科目の学びをより充実させ、栄養士就職に繋げるための授業の改善

「基礎ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅡ」授業内容の充実（平成28年度～）（課題）

①前期「基礎ゼミナールⅠ」で災害に備えて防災食の試食、段ボールベッド等の組立、防災町歩きなどを行い、その実践を踏まえ、「基礎ゼミナールⅡ（1回生後期）」では、前半は、「地域防災避難訓練」に向けて、5チームに分かれてブース訓練体験のブース運営の準備を行った。後半は、「栄養指導論実習Ⅰ」や「給食実務論」等で栄養価計算や献立作成など計算力、数的感覚が求められる科目が増えてくるため、専門科目の学びに欠かせない計算の復習・練習、また次年度の学外実習での記録簿の作成を見越し漢字テストを実施した。また、献立作成に欠かせない食材の分量の感覚を掴むための秤量実習や1日の食品目標量を使用した献立の調理を行い、材料から料理に変わった際のイメージ作りなどを体験し、1回生後期の献立作成に繋がるように工夫した。

②「ゼミナールⅡ（2回生通年）」では、令和元年度に良い流れを掴むことができたので、それを踏まえて就職活動、給食管理実習、学外実習等に関する事項について令和3年度についても計画的に取り組んだ。給食会社採用担当者に、働く現場として増えている委託会社栄養士の働き方など具体的に示してもらい、学内の実習では経験できないソフト食の体験などもさせていただいた。後期は栄養士実力認定試験対策を行い、令和3年度は20名が受験し、A判定13名（65.0%）、B判定6名（30.0%）、C判定1名（5.0%）であった。

【参考：令和2年度は25名が受験し、A判定14名（56.0%）、B判定10名（40.0%）、C判定1名（4.0%）】

(イ) 栄養士+αの力をつけるための授業の取組み

「ゼミナールⅠ」フィールド制科目における取組みの見える化（平成28年度～）（課題）

①「ゼミナールⅠ（フィールド）」は、前期（2回生）は、各フィールド1回生後期での取組みを活かし、実践活動に取り組む予定であったが、コロナ禍のため昨年度と同様、訪問活動や講座の開催はできなかった。各フィールドで下記の内容に取り組んだ。

医療・福祉フィールド	<p>●病態別の食事・嚥下食の研究と調理</p> <p>●コンテスト</p> <p>国立循環器病研究センター主催 第5回「S-1g大会（エス・ワン・グランプリ大会）」減塩お弁当</p> <p>7月：3チームに分かれて出品 9月中旬：2チームが予選通過 11月中旬：最終審査用の調理やPR動画の撮影を行い提出 12月18日：最終審査会</p> <p>金賞&amp;健都のみんなといっしょに選ぶ人気No.1賞 受賞 「体が気になってきたお父さんへ」（前田・新山チーム） 銀賞受賞「奈良の茶飯と多国籍弁当」（田中・小川チーム）</p> <p>受賞結果等が下記に公開されている。 結果：<a href="https://www.ncvc.go.jp/karushio/s-1g/2021/result-5/">https://www.ncvc.go.jp/karushio/s-1g/2021/result-5/</a> 最終審査会動画：<a href="https://www.youtube.com/watch?v=j10o6j_aDw8&amp;t=7s">https://www.youtube.com/watch?v=j10o6j_aDw8&amp;t=7s</a></p> <p>レシピ集： <a href="https://www.ncvc.go.jp/karushio/wpcontent/uploads/sites/10/20220325_dai5kai_recipe.pdf">https://www.ncvc.go.jp/karushio/wpcontent/uploads/sites/10/20220325_dai5kai_recipe.pdf</a></p> <p>両チーム共に学長賞を受賞した。</p>
食育フィールド	<p>●奈良市子育て支援センター夢の丘 SAH0 の親子を対象にしたクッキングの企画</p> <p>料理内容の検討（試作）・食材クイズ（カルタ）の作成</p> <p>企画のために子育て支援センターの見学も行ったが、奈良市のイベント制限のために実施できなかった。</p> <p>●親子で作れる料理の動画作成</p>

製菓フィールド	<p>●オリジナル アフタヌーンティーの企画 アフタヌーンティーの文化や歴史、礼儀作法などから調べ、メンバー各自が考えたスイーツでオリジナルのアフタヌーンティーを調理。 基本となるスコーンやサンドウィッチに和のスイーツも加え 11 品のスイーツを盛り付けて完成させた。集大成としてレシピ集も作成した。</p>
フードビジネスフィールド	<p>●第 19 回 「ザ・地産地消 家の光料理コンテスト」に各自 1 品ずつ応募 「苺ミルクスムージー」「苺ソースのサンドイッチ」「ドライ苺のパウンドケーキ」「苺いもけんぴ」「ことかりんとう」《入賞なし》 出品はイチゴだけになったが、柿の活用についても検討した。 直売所での販売もめざしていたが、生素材を使用し、安定した商品を作りあげるところまで到達できなかった。商品化の難しさ、6 次産業の難しさを痛感した。</p>

②後期（1 回生）は、まず 11 月 13 日（土）の福祉フェスタ（福祉交流会）に向けて各フィールドで活動した。

医療・福祉フィールドは高齢者・認知症の方の施設、食育フィールドは障害児・障がい者施設、フードビジネスフィールドは障がい者施設のランチ、製菓フィールドは全施設対象のデザートを担当した。それぞれの対象者の特性に応じた料理の内容、形態を考え、また、食育実践演習では自分たちで栽培した野菜を使用すること、また材料費を設定し試作を繰り返した。提供場所もそれぞれ異なったため、それぞれの会場で特別な時間を過ごしていただけるように会場設営も行った。実施後は、振り返りを行い、フィールド毎に発表し情報共有を行った。

後期後半は、各フィールドでテーマ設定を行い取り組んだ。食育フィールドでは、2 月に実施予定の奈良市子育て支援センター夢の丘 SAHO の親子を対象にした親子クッキング（手作りおやつ）、小学生の親子を対象にした公開講座に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症が増加傾向にあったため中止となった。

#### （ウ）地域連携の強化（平成 29 年度～）（課題）

##### ①ゼミナール等を活用した地域活動

- ・奈良市子育て支援センターの親子を対象とした食育クッキングは前期・後期共に企画・準備まではしたが、直前のコロナの状況が良くなかったため実施できなかった。
- ・本学実施の地域防災避難訓練は 1 回生が中心となり、4 グループに分かれて炊き出し訓練と体育館内の体験ブースで、段ボールベッド、段ボールトイレ・イスの組立コーナー、新聞紙等の活用コーナー、防災食紹介・活用コーナー、地域調査発表コーナーを担当した。参加者が多くなると密になるため、2 回生は学外実習を控えていたこともあり、自由参加とした。

##### ②その他

- ・食育実践演習（1 回生通年）に天理市の大和農園に協力して頂き、前期はなす 4 品種「白神」「絹皮水ナス」「黒壽大長なす」「うすむらさき」、後期は、大根 2 種「あじまるみ」「新貴聖」、葉物野菜「大和マナ」「春菊」の播種から栽培管理、収穫、調理までを行った。大和農園から 2 名が 4 回授業に参加していただき、講義と栽培指導をして頂いた。収穫したもので学生たちが料理を考案し、大和農園に提案した。料理写真などは、商品冊子に料理例として使用されたり、cookpad 「大和農園のキッチン」

(<https://cookpad.com/kitchen/40537267>) にアップされている。

- ・4 月 22 日（木）に紀平教員がアール薬局 郡山店で「糖尿病・無料講座」の講師を担当した。有限会社アールより依頼を受けたもので、参加者は 5 名だった。
- ・公開講座 2021 を 8 月 4 日に「もしもの時のために・・・みんなで作ろう！ 防災食！」を飯田教員が担当した。参加者は 10 名のうち小学校中学校の教員が 6 名、自治会などで防災担当になっている方にも参加した。講座終了後、参加者の紹介で、2 か月に 1 回発行される「大和郡山 防災ニュース」に 10 月より公開講座で紹介した料理をシリーズで掲載していただくことになった。

2 月 12 日（土）に実施予定だった「冬野菜とだしを味わう（親子クッキング）」は中止になったので次年度



に繰り越して行う。

- ・2月2日(水)に奈良市フードバンクセンター・奈良市社会福祉協議会より依頼があった、奈良市農業委員会より提供された大根400本を切り干し大根(KBD)に加工して、お困りの子育て世帯・子ども食堂・生活困窮者に配布するプロジェクトに協力した。食物栄養コース1・2回生15名と卒業生、教員が参加し、レストラン鹿野園とも協力し、大根の切り込み、天日干しを行った。

(エ) 学生確保のための取組み—魅力ある食物栄養コースの発信— (課題)

①オープンキャンパス

必ず食の体験が実施できるように計画していたが、コロナの影響で試食体験などを実施できなくなったので、実習系の体験が持ち帰りに限られ苦心した。

体験授業「生活と未来」では、食物栄養コース主担当では野菜のDNAを取り出してみよう、もしもに備えて防災食づくり、簡単レンジで蒸しパン作りを行った。

大学農園のPR、また収穫仕立ての野菜の美味しさを味わっていただくために、オープンキャンパス、なんでも相談会共に大学農園の野菜をお土産として持ち帰っていただいた。

②体験授業(出張講義)

8/31 県立磯城野高校 3年生ヒューマンライフ科の入浴体験実習の際に介護食についての講義と介護食ビジネスの講義を実施(紀平・島村)

2/16 奈良文化高校 2年生食文化コース1クラス実施

「奈良の食を味わう」調理実習(コロナのため実習に制限があり、デモンストレーションのみ)と奈良の食についての講義(島村)

③進路ガイダンス(体験授業)

10/5 奈良南高校1年生(飯田)、11/8 西和清陵高校2年生(島村)、1/26 五條高校2年生(島村)、2/16 奈良文化高校2年生(島村)、3/3 奈良情報商業高校(飯田)、三重県立上野高校2年生(紀平)を実施した。

(オ) その他

①学外実習は、昨年度よりも受け入れ先も多く、5日間の実習をほとんど行うことができた。

2施設は休憩室の広さやフロアに上がっての実習ができないという理由から一部を学内実習で代替した。

昨年度同様グループホームを想定しての実習内容にしたり、実際にグループホームに秋の行楽弁当(普通食・ソフト食)を配食し、昼食状況をオンラインで繋いだりして食事の様子を見せていただいたり、食事の感想を聞かせていただいた。

②調理実習等は、新型コロナウイルス感染症対策のために、調理後の試食場所を調理実習室と別教室に分かれて行ったため、出来立ての状態で試食ができなかったり、移動に時間がとられてしまい、片付けに影響がでるなどしたため、実施する予定の内容を変更することもあった。調理実習Ⅱは、6号館調理実習室が空いている日は、オンラインで繋いで実習をするなどして授業時間を目一杯調理と試食に取れるよう工夫した。

<ビジネスキャリアコース>

(ア) カリキュラムの抜本的体系化 継続(平成24年度～)

これまでのカリキュラム・ツリーはマーケットや学生ニーズを優先して科目開講を行って来た印象があり、体系化が不十分で教育理念やディプロマ・ポリシー、そして将来の進路へのキャリアパスが不明であった。これによりオープンキャンパスでのカリキュラム説明や履修科目・資格が就職先へ直結せず、学びの目的や根拠を説明し切れないジレンマがあり、また他大学と比較して開講科目の希少性や有益性の理解も得られにくかった印象がある。

そこで令和3年度においてコース内で討議を重ね、全開講科目のカテゴリズをやり直し、求める学生像からキャリアパスまでを整理・体系化した。まず教育理念「一 自律する人」「二 自己と他者を尊重する人」「三 事象に自らかかわる人」を「Ⅰ ビジネスに関する知識と技術」「Ⅱ 協働・協調力」「Ⅲ 課題解決力」の3カテゴリで表現した。さらに「Ⅰ ビジネスに関する知識と技術」においては「ビジネス基礎理論」「ビジネ

ス実務」「食ビジネス」「経営デザイン」の5つにリ・カテゴリーを行い加えてそれぞれにキャリアパスを例示した。さらにシラバスの学修成果にもリンクして記載し、これにより、本学の教育理念からカリキュラム体系、キャリアパスに至るまで、いわゆるビジネスキャリアコースにおける『入口から出口』まで一気通貫のカリキュラム・コンセプトを第一弾として提示することが出来た。令和4年度はさらに「カリキュラムの抜本的体系化2.0」として現在の開講科目と多彩な講師・一般企業等と協働し、さらに魅力あるカリキュラムを目指したい。

(イ) 医療秘書科目の導入と新体制への準備 継続(令和2年度～)

「医療秘書科目の導入」から「医療秘書科目・医療秘書検定対策講座の導入」が完了し、令和3年度に初めての卒業生が出て2名の内定者が生まれた。また令和3年度入学の1回生9名中8名が入学当初に医療事務職を希望するなど本プロジェクト当初の目標であった「医療事務関連科目による入学者の確保」においては一定の役割を果たした。

次に新たな課題も生じてきた。まず、現2回生の当初医療事務職希望者8名中で検定対策講座への参加者がわずか1名であり、2年連続で2名程度に留まったのみならず「医療秘書実務」等2回生担当授業も履修者は3名にとどまり、授業の過程で難易度や学生自身の限界を自覚し、キャリアチェンジに至った経緯がうかがえる。さらに資格取得に必要な必修5科目に加え自由選択である検定試験対策関連講座がさらに5科目あり合計の授業回数は10科目150コマに及び、そのコストは概算で年間150万円、2年間で300万円となる。この過重感は否めない。これに加えて対策講座の多くは夏期集中講座で実施された集中講義と重なることから、特に1回生を中心に疲労感が切実で憂慮される状況に陥った。さらに令和4年度前期においては、非常勤講師からの申し出により昨年前期で週1回開講であった授業2科目(「医薬と検査」「医療秘書実務」)が夏期集中講義になだれ込み空前の過密カリキュラムとなったが、検定対策講座のコマ数合理化を皮切りになんとか全日程を組み上げた。

ところで、医療事務関連の就職において検定資格の取得は必ずしもマストではなくむしろ無資格応募可能が大半であるのも現実でもあり、今後は通常授業の履修によって取得できる医事実務士資格取得に注力することが望ましいと考える。日々の授業を大切に、また医療事務現場実務をなるべく実感できるような授業展開に重点を置いて授業を進めたく、引き続き、検定対策関連講座を漸次発展的に解消しながら学生に資する視点で授業数の最適配分と効率化を考えていきたい。

最後に、医療事務領域はかつてビジネスキャリアの戦略プロジェクトとして発足し入学希望者へ「目標とする就職先」として当コース希望者に一定のPR効果は果たした。令和4年度入学の1回生も15名中6名が医療事務職を希望するなど受験者獲得に引き続きの成果をもたらしているが、今後とも履修者数、授業成績、就職者数、非常勤講師コスト等を鑑みながら学生やコースに資する領域であるか注視していきたい。

(ウ) ビジネスキャリアコースらしい自由でアクティブな協働型授業戦略と展開 新規(令和3年度～)

平成25年から取り組んできたインターンシップの早期化は令和2年1回生の夏休みに「インターンシップI」を行うスケジュール変更が実現し、これは効果的な英断であった。何故ならば通常就職活動は4年制大学であれば3回生の夏休みから潜行して始まるが、これが短大生では1回生の夏休みにあたる。前期の授業は終了し一定の学修成果も身に付いている時期ではあるが、4大生と比した物理的な時間不足による就活技量の劣勢は否めない。そこでこの時期にインターンシップを行うことにより、企業でのキャリア形成の具体的な意識を早期に持たせるのみならず、後期授業との連携により就職活動を進めるにあたって自己技量の確認やビジネスマーケットが求める人材像・トレンド、自身に課べき行動と技量、他大学との他流試合等が比較的早期に経験出来るべくコース教員にて授業内容のブラッシュアップを日々重ねた。そこから得た素朴な印象は、これまでは就職活動、授業、人物及び就職活動技量の習熟がすべて個別に動いてきた感があり、これらの融合を改善項目とした。

そこで令和3年度はインターンシップ、基礎ゼミ、ゼミナール等既存授業やゲスト講師を招聘したコラボ型授業と学内外のイベントを有機的に融合したアクティブな授業展開を積極的に企画・実行した。つまり、基礎ゼミ・ゼミナール・インターンシップ等体験型・ディスカッション型授業を1回生前期で先行展開し、さらに1回生後期で「ビジネス基礎」領域の理論科目や「ビジネス実務」領域のキャリア形成科目で前期の

「経験」の理論的フォローやビジネス実務の体系的演習を行うことでビジネス基礎理論の理解から学生自らの経験・行動による体得を重ね、年次ごとに重層的効果的にビジネス実務や職業観を育成し、最終的に科目間でのシナジー効果が期待できるような授業戦略・設計と「学び」「気づき」「実践」の3Pointsを通じて学生の「実感」を第一義に授業展開してきた。これについてはすでに令和3年度前後期の授業を通じて「基礎ゼミナール」にて「竹あかり」イベント運営による地域連携の重要性理解・演習、経営者懇談会で社会人としての心構えと求める人材像の明確化・実感、「キャリアデザイン」にて職業観の覚醒と自己分析・就職先選択のノウハウと担任教員・学生・キャリア支援センター等学内リソース活用の重要性理解・得心、「ゼミナールⅡ」による学内プロジェクト(地域防災訓練、シニアスマホ講習会等)企画運営や労働法履修による労働契約・労働者権利の理解による達成感・リスク管理・安心感、そして「経営学総論」にて「PDCA」「サーバントリーダーシップ」等授業のキーワードを各イベントで自ら体験した発見・驚き等により、来るべく就活やビジネス現場での能力発揮に資する育成指導と知識注入、他科目との連携効果の説明を行った。

さらに「インターンシップⅡ」に於いては2チームにおける「ビルメンテナンス企業における事務職」及び「自治体主催の大イベント」の異なるテーマで事前講義でのSWOT分析や学外実習での学びと気づき、そして事後講義での振り返りをもとにした合同報告会にて、各自の経験から得た学びと気づき、そして今後の実践計画を自ら考え、調べ、プレゼンテーションを行った。

(エ) ビジネスキャリアオリジナルの進路指導戦略 新規(令和3年度～)

2回生については本年度当コース進路指導方針として①一般就職(一般企業・法人等)②資格就職(公務員・医療事務等試験や資格に沿った就職)③進学(4年制大学編入、専門学校等)の3Wayを掲げコロナ禍での募集人員減少や選考のオンライン化等不案内な状況に関わらず学生各位は当初には不合格を重ねながらも地道に果敢にチャレンジを重ねた結果、令和4年2月に入り、2回生全員が内定を獲得した。内訳は医療事務2名、製造業1名、販売業1名、進学3名とビジネスキャリアらしい多彩で個性的な進路となった。

今般の2回生就職活動においては、入学時からの明確な志望を持った者が多く、ここに成功の一因があったと考える。よって1回生時から前項(ウ)の戦略に基づき「基礎ゼミナール」「ゼミナールⅠⅡ」や「経営学総論」「ビジネス文書」「ビジネス実践演習ⅠⅡ」「情報処理演習Ⅰ」「データサイエンス」等経営・ビジネス理論やビジネス実務系・IT系等の授業を通し常に「授業の学びをどう将来の自身の仕事に生かすか」を毎回の授業で考え行動できるよう引き続き継続的に指導していく。

(オ) ビジネスキャリアコースへの入学実績校と幅広い関係づくりにより、入学者数増加をめざす

継続(平成29年度～)

本年度の特長として、個別学内見学や予約無しオープンキャンパス参加でコース紹介へ出席した学生ほぼ全員が受験し、入学しており、ビジネスキャリアの現状を授業内容、学生対応、科目別難易度、そして進路(①一般就職②資格就職③進学)など率直かつありのままの現状をお話したことが功を奏した模様である。なお、令和4年度入学の1回生にゼミナールの授業を通じて「ビジネスキャリアコースを選んだ理由」をヒアリングしたところ、「スピーチ、ディスカッションなどコミュニケーションとプレゼン力が伸ばせる授業展開」「ビジネス系、医療系の資格が取れる」「就職先が多彩で100%の就職率」など我々がオープンキャンパスや個別説明時にプレゼンテーションし説明しているPRポイントや特長を正確に理解・記憶しており、学生本人や高校に対してもビジネスキャリアのストロング・ポイントは届いているようで、今後よりいっそうのPRに励む考えである。

(2) 地域こども学科

(ア) 免許資格取得に向けた教育の充実への取り組み 継続(平成23年度～)

卒業予定者67名中、幼稚園教諭二種免許状取得者48名、保育士資格取得者58名、社会福祉士受験資格者2名、小学校教諭二種免許状取得者2名である。資格取得率について、幼稚園教諭免許71.6%、保育士資格は86.6%、保育ソーシャルワークフィールドにおける社会福祉士受験資格は66.7%、小学校教諭二種免許はこども教育コースで100%である。

(イ) 初年次教育・基礎教育の充実への取り組み 継続(平成23年度～)

コロナ禍で、教育内容を変更せざるを得なかった状況ではあるが、1回生「基礎ゼミナールⅠ」（前期）「基礎ゼミナールⅡ」（後期）授業をとおして、実践に強いスキルの修得を目指して、前期は第1回プレゼンテーションコンテストを実施し、1回生全員がPPT作成及びプレゼンテーション能力の向上、後期は第1回「あそびのひろば」を実施し、子育て支援広場の実際を企画・運営から取り組んだ。

(ウ) 就業力の育成について 継続（平成23年度～）

ゼミナールⅠⅡ及び総合演習の授業をとおして採用試験対策に取り組んだ。令和3年度は、現役学生1名が小学校採用試験を受験したが合格には至らなかった。卒業後も採用試験のサポートをしていた既卒生2名が受験したが不合格であった。

幼稚園・保育所等、地方公務員採用試験対策については、「総合演習」授業時間を活用して、公立の幼保採用試験を希望する学生7名へ、受験する市町村に対応した受験対策指導にあたった。全受験者は7名中合格者は4名であった。「キャリアデザイン」授業(後期)に実施されたプログラム「先輩の就活体験を聞こう」受講することでより職業へのイメージが強まった。また「社会人マナー講座」を令和3年から実施し、実践的な基礎マナーの修得につなげた。

(エ) 地域貢献事業の実施について 継続（平成22年度～）

地域貢献事業としては、令和3年度はコロナ禍の状況につき、高校・幼稚園・保育所等への出張講義、本学で実施されたオープンキャンパス開催日に同時実施としたピアノ無料講習会のみ行った。

学生の社会的活動においては、学習成果を学内外に発信する取組みとして、「表現遊び」ゼミナール（フィールド）が子ども園へオペレッタの出前講演を実施した。「幼児体育」ゼミナールでは、10月と12月の2回、本学に奈良佐保短期大学附属幼稚園を招いて体育館で55名の園児と学生が運動遊びの実践を展開した。また、「自然と遊び」ゼミナールでは、学内の農園を活用し、学内で育てたマリーゴールドの苗をお世話になっている保育所・幼稚園、本学近隣各所に届けるという地域連携を基盤とした実践活動に取り組んだ。

「基礎ゼミナールⅡ」授業をとおして、第1回「あそびのひろば」を実施し、予約制で地域の親子を午前・午後と50組招いて子育て支援活動の一環とし、また学生の実践力の修得として開催した。

(オ) 成果発表会について 継続（平成22年度～）

学生のゼミナールでの学びの集大成として「成果発表会」を実施した。各ゼミナールが成果報告会を学内で実施し、学生間相互で学びあう取組みとなった。

「教職実践演習」授業の総仕上げの取組みとして、各自が教育者・保育者を目指す上で、自分自身の課題「テーマ」を決めた「実践活動報告」を実施した。2回生が全員発表者となり、学内において分科会形式で3会場に分かれて実施し、学内全体に報告会参加案内を告知した。あわせて、各自の発表内容についての抄録を「実践活動報告書」として作成し、学習成果のまとめとした。

(カ) 入学前学習支援 継続（平成23年度～）

①入学前研修会の実施

大学生活がスムーズにスタートが切れるように、令和2年度より3回にわたって入学前研修を実施した。

開催日

- |     |                |             |               |
|-----|----------------|-------------|---------------|
| 第1回 | ： 令和4年3月12日（土） | 10:30～15:00 | 予定（①ピアノ講習を含む） |
| 第2回 | ： 令和4年3月19日（土） | 10:30～15:00 | 予定（②ピアノ講習を含む） |
| 第3回 | ： 令和4年3月29日（火） | 10:30～15:00 | 予定（③ピアノ講習を含む） |

主な研修内容

- a 地域こども学科の特色等
- b 教育内容及び取得できる免許・資格
- c 各実習に関すること
- d 授業内容についての事前準備（Chromebook 使用設定）
- f ピアノ講習

第1回目は保護者参加として、全3回とも無断欠席はなく概ね100%の参加率であった。

## ②ピアノ入学前講習会

ピアノ実技に対する不安を解消すること、ピアノ実技科目となる「器楽演習」履修時におけるピアノ教育の導入をスムーズに実施することを目的に、入学決定者全員を対象に、ピアノの入学前講習会を行った。また、入学決定者全員を対象とし、入学時におけるピアノ実技経験を持たせること、及び音楽教育の充実へとつなげるために実施した。入学前研修会とあわせて欠席者は、第1回目は全員出席、第2回目2名、第3回目1名、で無断欠席者はいなかった。

### (キ) 子育て支援センター“ゆめの丘 SAHO”への支援 継続(平成22年度～)

子育て支援センターにおいて学科所属教員が毎月1日ずつ相談援助を担当した。

### (ク) 2回生保証人教育懇談会 継続(平成22年度～)

PTが保証人及び保護者懇談が必要であると思われる学生について、また資格取得に課題のある学生及びGPAが2以下の学生8名については三者面談を実施した。個別の懇談に際しては、教員間で事前に学生の課題を共有した上で、PT・実習指導教員・学科長でチームを組んでの複数面談を実施し、学生の進路指導にあたった。また、今後の学習支援・就職支援については、学生・キャリア支援センター及び障害学生修学支援センターと連携をとりながら進め、学科教員全員で情報共有した。

### (ケ) こども教育コースの運営について 継続(平成25年度～)

近隣小学校でのスクールサポートを授業の展開とし、昨年度は、奈良市立の小学校と調整を重ねた上で、ゼミナールや総合演習の時間に、小学校で授業支援をし、その後、スクールサポートの振り返りをするスケジュールを組むことができた。実習以外に小学生への学習サポートの活動を実施することで、児童への関わりを深く考えるきっかけになっただけでなく、こども教育コースの学生の小学校教諭免許取得への意識を高め、教職を目指す学生を方向づけることができた。

### (コ) 「実践活動報告書」(ゼミナール活動)の作成 新規(令和4年度～)

学生のゼミナールでの学びの集大成を「成果発表会」とし、各ゼミナールが成果報告会を学内で実施し、学生間相互で学びあう取組みとした。その内容について、ゼミナール指導教員が「教育実践報告書」(第1号)としてまとめた。

### (サ) 実習施設との教育連携協定を締結 新規(令和4年度～)

実習先施設との教育連携を深めていく連携協定締結書を取り交わして進めていくことを目指したが、コロナ禍での現場と大学との交流が難しく、令和3年度は教育連携協定に至らなかった。

### (シ) 学科「ニューズレター」(定期刊行) 新規(令和4年度～)

学科紹介チラシ(A3両面)を1枚作成したが、定期発行には至らなかった。

## (3) 日本語教育別科

### (ア) 新型コロナウイルス感染症対策の影響により海外からの留学生の入国が困難なため日本語教育別科を開講することができなかった。

### (イ) 令和4年度入学生募集について、新型コロナウイルス感染症対策の状況が変わらず、先行きが見えない状況であることから令和3年度に引き続き令和4年度の入学生募集も行うことができなかった。

## (4) 滋京奈地域人材育成協議会への参加 継続(平成28年度～)

平成28年度に文部科学省産業界ニーズGPのさらなる発展を目指して設立された滋京奈地域人材育成協議会に引き続き会員校として参加。「社風発見インターンシップ」や「滋京奈合同企業説明会&企業研究会」などの各種事業を通じて、滋賀、京都、奈良の加盟大学とともに地域を支える人材育成に取り組む。

## (5) 介護職員初任者研修

### (ア) 介護職員初任者研修課程の実施 継続(平成25年度～)

①令和2年度は、コロナ禍のため研修を実施することができなかったことから、令和3年度は、2回生を優先して受講できるように学年別に段階的に募集を行った。結果2回生14名、1回生(長期履修生2年目)1

名の計 15 名が受講した。(生活未来科生活福祉コース 2 名、食物栄養コース 5 名、ビジネスキャリアコース 5 名、地域こども学科 3 名) 3 月の入学前説明会、4 月のオリエンテーションで各学科コースから学生及び保証人に周知し、4 月 6 日(火)に説明会を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考え、本学学生のみを受講生を限定したこと及び 2 回生優先を伝えたので、定員の 20 名には達しなかった

- ②学内での講義・演習を 120 時間実施した。学外実習は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、実施を取りやめ、その分は学内で講義を行った。
  - ③遅刻や欠席のあった科目について、研修担当教員へレポート課題を依頼、学生より課題を回収、教員への提出、学生への返却という一連の流れを行った。生活支援技術の科目については補習を実施した。
  - ④終了評価(筆記試験)を 9 月 21 日(火)に行い 15 名が受験、13 名が合格した。不合格の 2 名については補習を行い、10 月 8 日(金)に再試験を実施し、2 名が合格した。
- 結果、受講生 15 名全員が研修を修了した。

#### (6) 研究紀要の刊行(課題) 継続(昭和 51 年度～)

(ア) 本学教職員の研究成果を発表する機会としての「奈良佐保短期大学研究紀要」第 29 号の発行

(課題) 継続(昭和 51 年度～)

「奈良佐保短期大学研究紀要」第 29 号を 3 月 31 日(木)に 250 部発行した。研究報告 3 件に加え、「2021 年度研究業績一覧」を掲載し、教職員や非常勤教員に配付し、国立国会図書館や関係法人等の 7 箇所へ献本した。

##### ①スケジュール及び「原稿の流れ」

令和 2 年度に引き続き、エントリー締切日を 7 月末、原稿提出締切 11 月末、査読依頼 12 月、入稿 1 月末、発行 3 月というスケジュールで進化した。自己点検評価室からの要望があり、提供されたデータを基に「2021 年度研究業績一覧」ファイルを図書館で作成した。

2 月 7 日(月)に研究報告 3 件と「2021 年度研究業績一覧」を入稿し、2 月 15 日(火)初校、2 月 24 日(木)の再校、3 月 2 日(水)の三校を経て、3 月 31 日(木)に完成した。

##### ②査読方式

令和 2 年度に、「Double-Blind Review」(著者・査読者ともに双方の名前を知らされない査読システム)方式を希望する教員もいたため、「Single-Blind Review」(論文著者は査読者が誰かを知らされず査読者は論文著者を知っている査読システム)方式から「Double-Blind Review」方式に査読方式を変更したが、特に問題はなかった。このことから、令和 3 年度も、年度初めに各教員に確認後、「Double-Blind Review」方式の査読を進めた。

##### ③令和 2 年度(第 28 号)振り返り後の変更点

###### a 投稿数を明記する

1 人あたり 2 本以上の投稿があったため、「原則、1 人あたり 2 本までとする」ことを明記するために、「奈良佐保短期大学研究紀要 投稿カード」の一部を変更し、5 月 13 日(木)第 3 回教授会で報告した。

###### b 倫理的な配慮に関する項目を明記する

アンケート調査を用いた研究については、投稿者全てに対し、「アンケート用紙の提出を求めること」「データ収集の方法において、プライバシーや個人情報の保護に留意している」等の記述がない場合は、「研究倫理上の問題を適切に処理した上でそのことを本文に明記すること」を求めたことから、そのことを「執筆にあたってのお願い」文書に追記・変更し、5 月 13 日(木)第 3 回教授会で報告した。さらに、倫理的な配慮に関する項目を追記するため、「奈良佐保短期大学研究紀要」投稿規程「改正(案)」を図書・学術委員会で作成し、6 月 10 日(木)第 4 回教授会で審議・策定した。

④令和3年度（第29号）振り返り

提案事項	審議の結果
①奈良佐保短期大学の学生及び卒業生も専任教員と共同執筆であれば、投稿者の範囲とする。	①承認する。 エントリー数が多い場合は、断る場合もある。
②原稿・研究ノート「査読あり」 研究報告・資料・その他「査読なし」	②懸案事項として来年度へ申し送りする。
③経費削減のため、別刷りはなし。 別刷り代は著者負担。	③承認する
④外部査読者に依頼する期間が短いため、投稿締切を11月末から10月末に変更する。	④教員の意向を踏まえ、来年度へ申し送りをする。 投稿締切1か月前の10月末に、投稿の有無と「原稿表題」「内容」「種別」等の変更点等を確認する機会を設けること。

(イ) 査読及び査読以外での研究紀要における質を保つための方策（課題） 継続（平成25年度～）  
昨年度に引き続き、①～⑤の方策をとり、実施した。

- ①エントリー時、論文の趣旨を明確にしてもらうため、「奈良佐保短期大学研究紀要 投稿カード」に投稿者自身に論文内容の領域と概要及びキーワードの記入を求めた。
- ②各研究分野により論文執筆の形式は違うが本学研究紀要の論文執筆にあたり参考にする資料として、投稿者に日本栄養士学会雑誌（Vol. 57(10)～58(2), 2014-2015）に掲載された「論文の書き方」を配付した。  
また投稿時に、「奈良佐保短期大学研究紀要 査読用判定指針リスト」によるセルフチェックを求め指針リストの提出を求めた。
- ③論文提出時、投稿者にも「奈良佐保短期大学研究紀要 査読用判定指針リスト」によるセルフチェックを求め指針リストの提出を求めた。
- ④原稿締切11月末時点で投稿者に原稿の提出を求め、「図書・学術委員会による受理判断」編集会議を、12月9日（木）及びメール審議により、原稿の受理を判断した。
- ⑤著者への注意喚起を目的とした「奈良佐保短期大学研究紀要 投稿、入稿時及び校了前チェックリスト」を作成し、投稿・入稿時、及び校正時に著者に配付し、編集者も同リストを使用して校正した。

## 2. 入学生の確保に関する事業

<入学試験関係>

### (1) 令和4年度入試状況

(ア) 6日間の入試日程で次にあげる種別の入試を実施し可否判定を行った。結果は次のとおりである。

令和4年3月31日現在

項目	回数	生活未来科			地域こども学科			計		
		受験者数	合格者数	辞退者数	受験者数	合格者数	辞退者数	受験者数	合格者数	辞退者数
総合型選抜(体験)	1	6	6		4	4		10	10	
総合型選抜(面談)	5	10	10		6	6		16	16	
学校推薦型選抜(指定校)	1	16	16	1	14	14		30	30	1

学校推薦型選抜 (公募)	2									
一般選抜	2	4	4					4	4	
自主的活動評価入 試	3	2	2		5	5		7	7	
社会人入試	5	2	2		1	1		3	3	
連携校入試	1	5	5		6	6		11	11	
特別連携校入試	1				1	1		1	1	
外国人留学生入試	5	1	1					1	1	
離職者職業訓練	1	31	18		16	10		47	28	
合計		77	64	1	53	47		130	111	1
入学予定者数		63			47			110		

※離職者職業訓練は、令和3年度入試から従来の介護福祉士養成科（8名募集）、栄養士養成科（10名募集）、保育士養成科（10名募集）の募集となった。

外国人留学生の国籍は、スリランカ1名であった。

#### 入試種別ごとの志願者数の推移

項目	令和4年度入試	令和3年度入試	令和2年度入試	令和元年度入試
総合型選抜(体験)	10	14	35	26
総合型選抜(面談)	16	6	20	13
学校推薦型選抜(指定校)	30	36	19	26
学校推薦型選抜(公募)	0	5	5	4
一般選抜	4	3	1	7
自主的活動評価入試	7	12	3	6
ファミリー入試				
社会人入試	3	3	5	4
連携校入試	11	13	12	11
特別連携校入試	1	2	0	0
外国人留学生入試	1	14	13	4
離職者職業訓練	47	42	27	34
合計	130	150	140	135

(イ) 受験生の出身高校所在地は、次のとおりである。令和3年度入試以降は離職者職業訓練者は含まず。

府県名	奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	三重県	その他	留学生	計
4年度	58	0	14	3	1	1	2	3	1	83
3年度	64	1	14	7	0	2	4	2	14	108
2年度	75	0	20	9	4	1	8	10	13	140
元年度	60	1	14	4	2	4	2	44	4	135

※「その他」には、離職者職業訓練者数も含む。



(ウ) 令和3年6月22日(火)に近府県の高等学校進路指導担当教諭を対象とした入試説明会を、622講義室にて開催した。参加校は、次のとおりである。

府県名	奈良県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	和歌山県	三重県	その他	日本語学校等	計
4年度	16		1							17
3年度	18		2	1						21
2年度	26		3	1						30
元年度	24		3	1						28

(エ) 日本語教育別科の令和4年度入試の概要

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による入国拒否制限により海外からの留学生が見込めないため、令和4年度の入学生の募集を停止した。

(オ) その他

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症拡大防止策の徹底として、マスク着用、各試験会場アルコール設置、非接触式体温検知器の設置等を実施した。会場準備では各試験会場のアルコール消毒、受験生間を広げた座席指定等を実施した。面接試験では受験生が入れ替わるたびに机・椅子・扉の取っ手等の消毒、受験生と面接官の間にシールド設置等を実施した。

また、ウェブサイトや受験票送付時に新型コロナウイルス感染症拡大防止の注意喚起と対応についての文書を同封した。体調不良者が生じた場合は、その対応及び健康状態チェックリストを作成した(大学入学共通テストに準ずる)。

(カ) 令和5年度入学者選抜の検討

- ①文部科学省から通知のあった大学入学者選抜改革を受け、令和3年度入学者選抜学生募集要項を大きく変更した。令和5年度入学者選抜は、基本的には令和4年度入学者選抜を踏襲する。
- ②一般財団法人大学・短期大学基準協会の指摘を受け、学生募集要項の入試種別ごとに募集人員を掲載した。
- ③学生募集要項のQ&Aにオープンキャンパスやガイダンス等で質問される内容を追加した。
- ④本学独自の奨学生制度・優遇制度・支援制度と高等教育修学支援新制度の整合性を図るため、規程の見直しをした。

(キ) 学生募集要項等の印刷業者の選定と必要経費の削減に努める

- ①従前より学生募集要項の業者選定は、印刷仕様書を作成し、印刷業者(本学で納入実績のある印刷業者)への説明会を開き、「競争見積合わせ」による業者選定を行ってきた。また、競争の力学が働くよう仕様書の説明会に多くの印刷業者が参加するよう努力した。今回、4社が説明会に出席し、仕様書(3種類)ごとに最安値をつけた2社と契約した。
- ②学生募集要項の作成経費を削減するため、入稿のデータ化を実施した。

<広報関係>

(1) マスメディア関連から見た戦略的な広報活動

(ア) ニュースリリース実績

ニュースリリース	12本
新聞等掲載	12回

(イ) 広告実績

新聞広告	7回
大会誌広告	2回

(ウ) 奈良交通バスつりチラシ実績

2回

(2) イベント関連から見た戦略的な広報活動

(ア) オープンキャンパスを17回実施し、延べ321人が参加した。

開催日	参加者	高校3年生	高校2年生	保護者	アン	学年未	計	個別相談申
		既卒者	以下	付添者	ケート未 回収	記入		
4月17日(土)		13		5			18	4
5月16日(日) 進学		8		2			10	5
5月29日(土)	新型コロナウイルス感染拡大のため中止							
6月13日(日)		53	3	20	3		79	14
6月26日(土) 進学		1		1			2	1
7月10日(土)		30	4	19		1	54	6
7月25日(日) 進学		2		2			4	2
8月7日(土) 進学		1	1	1			3	2
8月22日(日)		22	5	27	3		57	7
9月25日(土) 変更		8	1	8			17	2
10月23日(土) 進学								
10月24日(日) 進学		1					1	1
11月7日(日)		4	2	5			11	2
12月5日(日)		3	5	4			12	
1月29日(土)		10	3	6			19	2
2月27日(日)		14	3	2			19	8
3月26日(土)			11	4			15	2
計		170	38	106	6	1	321	58

オープンキャンパスの学科・コース別の参加状況

開催日	参加者	生活	食物	ビジネス	小計	地域	検討中	合 計
		福祉	栄養	キャリア		こども		
4月17日(土)			1	1	2	11		13
5月16日(日) 進学			3	1	4	4		8
5月29日(土)	新型コロナウイルス感染拡大のため中止							
6月13日(日)		2	13	2	17	38	4	59
6月26日(土) 進学						1		1
7月10日(土)		3	11	2	16	18	1	35
7月25日(日) 進学				1	1	1		2
8月7日(土) 進学			1		1	1		2
8月22日(日)		2	4	3	9	20	1	30
9月25日(土) 変更		2	2	1	5	4		9
10月23日(土) 進学								
10月24日(日) 進学						1		1
11月7日(日)		1	2	1	4	2		6
12月5日(日)			2		2	5	1	8

1月29日(土)	4	4	1	9	3	1	13
2月27日(日)	2	8		10	7		17
3月26日(土)	1	1	1	3	7	1	11
計	17	52	14	83	123	9	215

大人のオープンキャンパスを3回実施した。

開催日	参加者	社会人	高校生	付添者	計
9月24日(金)		3			3
11月19日(金)		1			1
12月17日(金)			1	1	2
計		4	1	1	6

オープンキャンパス参加者(本学に関心をもつ高校生・社会人)の推移

	R3		R2		R元	H30	H29	H28
	OC	進学	定例	特設				
4月	13				34	25	29	47
5月		8			40	31	31	41
6月	59	1	33		57	49	58	36
7月	35	2	33	26	52	57	113	140
8月	30	2	28	10	45	47	37	-
9月	9		15	3	27	23	21	43
10月		1		6	-	-	-	-
11月	6			7	-	-	-	-
12月	8			4	-	-	-	-
1月	13				-	-	-	-
2月	17				28	-	-	-
計	190	14	109	56	283	232	289	307

(イ) 高校訪問・高校説明会・体験授業・進学相談会実績

高校訪問(全教職員による)	2回
高校説明会・体験授業	62回
進学相談会	8回
資料頒布会	33回

※4月と1月の高校訪問は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、資料を送付した。

(3) 被服関連から見た戦略的な広報活動

(ア) 大学名・キャラクター入りの貸出用半袖ポロシャツ・イベントブルゾン作成と活用

オープンキャンパスの学生スタッフ	延べ 6名 参加
------------------	----------

※オープンキャンパスの学生スタッフや学生が参加する学外活動(地域の祭りや奈良スイーツ・コンテスト等)時にポロシャツやイベントブルゾンを貸し出して、参加学生には一体感を、外部の方には大学参加を認識いただき、本学の知名度・認知度の向上に努める計画をしたが、新型コロナウイルス感染症拡

大防止のため学生の参加は、原則取りやめた。(ただし、学科・コース紹介のみの参加は、新型コロナウイルス感染状況を見ながら実施できると判断したときのみ実施した。)

(4) 環境美化(広報ボランティア) 関連から見た戦略的な広報活動

(ア) 広報ボランティアの登録と活動

令和3年4月6日(火): オリエンテーションで動画配信による説明

令和3年4月13日(火): 622 講義室で説明会を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新規登録の募集活動も中止した。

生活未来科	3名	11名
地域こども学科	8名	

(イ) 環境美化整備(クリーンアップ大作戦)

バス停に草花プランターの設置	バス停前花壇と大型花壇(夏: マリーゴールド 1500 株)の植栽
学内樹木の剪定	自然広場「夢の丘 SAHO」草刈・樹木の剪定
花いっぱい運動 マリーゴールド 2500 株	花いっぱい運動 ハボタン 400 株

(ウ) 朝のあいさつ運動

毎月第2週目に実施した。(10月以降は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。)

(5) 看板関連から見た戦略的な広報活動

護国神社下の駐車場	大学名入り横断幕の設置	大学 広報
	オープンキャンパス告知用横断幕の設置	
1号館前	キャラクターの顔出しパネルの設置	
正門	キャッチコピー入り横断幕の設置	
正門・バス停	新型コロナウイルス感染症拡大防止注意喚起横断幕の設置	

(6) 印刷物関連から見た戦略的な広報活動

大学案内(キャンパスガイド)	8000部作成	オープンキャンパス・高校訪問・高校説明会等で配布
プチアセビ	年間4回発行1回あたり300部作成	
馬酔木通信	年間1回発行2000部作成	
学科チラシ	1000部ずつ作成	

(7) グッズ関連から見た戦略的な広報活動

在庫数

奈良佐保クリアファイル	紺色: 2449枚 ピンク色: 622枚	オープンキャンパス・高校訪問・高校説明会等で配布
奈良佐保カバン	481枚	
奈良佐保ボールペン	365本	
奈良佐保緑茶	緑茶: 28本 水: 49本	

奈良佐保チョコレートハンドタオル	抹茶：110個 ストロベリー：109個 チョコ：141個
奈良佐保マスクケース	812個
奈良佐保マスクingtテープ	350個

(8) 動画関連から見た戦略的な広報活動

大学紹介用ビデオ	生活福祉コース特別社会人紹介バージョン作成 (6分) 学内のVR動画作成 地域こども学科紹介 動画作成 (8分)
----------	--

リード契約	近鉄奈良駅 電照広告 動画更新
-------	--------------------

(9) 進学情報等関係業者から見た戦略的な広報活動

(ア) 雑誌・ネット・資料請求

マイナビ	JS コーポレーション
ベスト進学ネット	アクセスリード

(イ) 雑誌・進学説明会案内

昭栄広報 (雑誌・進学説明会)	さんぼう (雑誌・進学説明会)
-----------------	-----------------

(ウ) 進学説明会案内

キッズ・コーポレーション	エフオール
TAP	ケーホウ

(10) ネット関連から見た戦略的な広報活動

ウェブサイト	ウェブデザインのリニューアル完了。「さわやかさ」なイメージにした。
LINE	平成28年8月開始 リニューアル 令和3年2月18日に審査の承認を得る。 ウェブサイト・チラシ等で「お友達再登録」を促す。お友達登録46名。イベント開催を告知。本学との繋がり強化に努める。
インスタグラム	平成30年3月開始 本学の四季折々の画像を公開。本学認知度の向上に努める。

(11) 個人情報保護関連から見た戦略的な広報活動

広報媒体等への写真等の使用についてアンケートを実施した。次のような結果である。

同意しない		17名
各種広報誌 ウェブサイト	写真等の背景に写り込む程度は構わない	26名
	写真等の背景に写り込むこともいやである	0名
刊行物 記念アルバム	個人写真に写りたくない	21名
	集合写真に写りたくない	1名
	授業風景に写りたくない	3名

### 3. 大学建物の改修及び設備備品の購入、更新、経費の削減の取組み

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対策

①学生ホールや学生レストランに飛沫対策のためアクリルパネルを設置した。

②換気を徹底するため、窓を開放中に蜂等の侵入をふせぐ網戸を設置した。

2号館3階の教室(231, 232, 233)

③手指消毒器15台をポンプ式から自動式に交換。

#### (2) 施設設備及び節減

令和3年度エアコン改修工事は1号館を重点的に更新した。更新箇所は1号館1階111食育コミュニティルーム、2階121調理実習室と準備室、3階自己点検評価室を更新した。

電力量については、前年度に引き続き電気会社との契約を見直す等、節減に努めた。

令和2年度はコロナ禍にあったものの、学校休業等の措置もあり、対年度比約112万円の節減効果があった。

しかし、令和3年度はほとんどの授業が対面授業となり、換気に努めたが、結果72万円の増加となった。だが、コロナ禍以前に比べると39万円の節減となっている。

<電気料金の削減効果>

平成30年度 11,712,435円(平成30年度を100とする)

令和元年度 10,690,621円(△1,021,814円 91.28%)

令和2年度 9,563,489円(△2,148,946円 81.65%)

令和3年度 10,292,694円(△1,419,741円 87.88%)

#### (3) コピー用紙の削減

令和3年度から教授会が紙媒体からGoogle Classroomを利用し委員会等の会議でもペーパーレス化の取組みを始めた。過去2年のコピー用紙購入実績を比べると令和元年度は43万円、令和2年度は53万円、今年度は37万円となり、昨年度と比べて16万円の削減成果が出てきていると思われる。

#### (4) 行事関係

昨年度に続きコロナ禍で学生と教職員のみでの入学式・卒業式となったが入試・広報センター、情報メディアセンター、法人等と連携しライブ配信を行い、参列できなかった保護者に対して式典の様子をYouTubeで配信した。

### 4. 学生支援に関する事業

<教務>

#### (1) 教学マネジメントの推進を図る。

教学マネジメントの推進については、学生支援情報システムsaho naviの学修支援のための様々な機能を利活用することにより教育の質向上を目指している。

令和3年度1回生全員にノートパソコン(chrome book)必携を導入することによって、個々の学生にとって学びの利便性を高めるべく運用している。トップ画面に新着や期限のあるものなど配信されている情報メニューが表示され、インフォメーション掲示板による連絡事項、学生全員へのメール配信、教員をはじめ、個々の学生宛てメール送信など、大学と学生のコミュニケーションツールとしての仕組みを確立したところである。

また、学生が受講する授業科目の履修登録手続き、履修する授業科目の時間割、授業に関する連絡事項、履修している授業科目の出席状況、成績やGPAなどについて、教職員及び個々の学生が確認することができる。学生のみならず、教職員にとっても利活用の幅を拡げることが可能となった。

運営上の課題は令和3年度の教学マネジメントの進行にあわせて、運用上のシステム整備を進めていくことである。3月25日(金)その円滑な運用と活用推進を目的とし、教職員連絡会を開催し様々な機能を活用して各人の業務効率化に繋げるよう周知した。

例年の業務として、教育目標達成のため学修成果の査定(アセスメント)について、所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況、単位取得状況・GPA から教育課程全体を通した学修成果の達成状況を把握し、精度の向上を図った。

教授会運営に関して、進行のとりまとめもあわせて実施する中で、教授会資料を Google Classroom にて配信しペーパーレス化を実施した。今後、スクリーン投影による資料提示なども取り入れていくこととしている。教務委員会についても、Google Classroom 配信によるペーパーレス化を実施した。

- (2) 学科・コースの教育課程編成・実施の方針に基づき、地域社会や産業界など学外から意見を聴取し、カリキュラム改革を行う。

学科・コースの教育課程編成・実施の方針に基づいてカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを構築した。学修効果を高めるために履修人数や使用教室等について配慮し、またパワーポイントや DVD 等映像資料の活用により学生の理解度を向上させるため、教室希望調査に則って、限られた教室の配置の工夫をしてきた。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症防止対策を継続した。

主な内容として以下のとおりである。

- ・3密を避けた座席指定表を全教室に掲示
- ・受講における感染防止対策の徹底
- ・使用機器等の消毒確認
- ・非常勤教員への本学取組みについての連絡
- ・発熱等での欠席学生の情報管理と関係各部署への連携
- ・本学における危機管理対策委員会の業務の一環として、新型コロナウイルス感染症情報について学生への連絡徹底

なお、教育課程編成・実施の方針に基づいて、地域社会や産業界など学外からの意見聴取、学外実習の実施機関への意見聴取について、令和3年度はコロナ禍の現状を踏まえ、学外実習及び地域社会や産業界の方々に関わる教職員からの意見聴取にとどめた。

- (3) 教育的効果を踏まえた年間予定と授業15回確保及び時間割を策定する。

現状のコロナ禍の状況を踏まえ、GAKUEN システム及び学生支援情報システム saho navi に今後の教育的効果を踏まえた年間予定と授業15回確保及び時間割を策定については以下のとおりである。

- ・授業時間割コマについては、1クラスの人数制限を勘案して配分
- ・学問分野の特性上対面授業を原則とすることを基本方針とし、遠隔授業は緊急避難措置として対応方法を検討
- ・授業の実施及び休補講については教育支援センターでの掌握
- ・新型コロナウイルス感染症に関する公欠等についての扱い規程の整備
- ・非常勤講師への迅速な対応

なお、教育効果の向上に向けて、教員の学生支援情報システム saho navi の運用や Google for Education の活用の熟達のため、教務研修を実施した。

令和3年度2回生在籍者117名のうち110(94%)が卒業要件を満たし卒業した。

- (4) 地域社会に貢献し、社会人を積極的に受け入れる。

例年、科目等履修生を受け入れるため、ウェブサイト等により情報を公開し、地域・国際連携センターと連携して聴講生を受け入れてきたが、令和3年度は、コロナ禍の現状を踏まえて、本学卒業の科目等履修生の受講のみにとどめた。

奈良県委託訓練事業に係る離職者訓練生及び長期履修学生も受け入れている。

- (5) 事務組織の整備

令和2年度は3名の事務職員で、コロナ禍での授業実施に伴う「出席管理」「授業課題配信」「時間割の策定」

「年間授業計画の策定及び修正」等の業務を遂行した。平行して、両学科の課程申請手続き、さらには GAKUEN システムの導入にともなう学生支援情報システム saho navi へのシステム移行への業務を担った。

#### <学生生活>

##### (1) 学生支援について

(ア) キャンパスマナー、パブリックマナーを向上する。

(イ) 健康増進法の観点から禁煙及び受動喫煙防止についての敷地外の見回りを行った。奈良市に依頼し、12月末に健康講演の動画を配信した。

(ウ) 新型コロナウイルス感染症対策のため全学生に対面での交通安全講習会は実施せず、自動車・自動二輪・バイク通学希望者のみ、YouTube で JAF の交通安全講習会を視聴し、問題に解答させることとした。

##### (2) 学友会活動の支援について

(ア) 新型コロナウイルス感染症対策のため、学友会総会は各クラスのクラス委員のみで実施した。学友会行事については、七夕、ハローウィン、クリスマス会の各時期に学生ホールで飾り付けを行った。

(イ) 3月末に全学生参加の行事を計画したが、実習等の変更により、運営する学生の確保が出来ず、次年度へ繰り越された。

##### (3) 留学生の支援について

新型コロナウイルス感染症予防のために、生活面や健康面で具体的に支援することが困難であった。

##### (4) 大学祭の支援について

新型コロナウイルス感染症対策のため6月の学外実習が10月に延期となったため、開催が困難となり、中止となった。

##### (5) 職業訓練生の対応について

出欠管理や月末報告に必要な書類や企画提案書の作成等は他部署・教員の協力もあり円滑に実施できた。

#### <障害学生修学支援>

##### (1) 修学支援の認定及び支援の実施

①委員会を7回(4月、5月、7月(2回)、9月、1月、3月)開催し、障害学生の認定、支援計画の決定から支援実施後の検証を行い、支援の公正で円滑な運営を図った。

②障害学生修学支援委員会で新規に7名(生活未来科:3名、地域こども学科:4名)の障害学生を認定し、支援計画を策定した。また、前年度からの継続支援として1名(生活未来科:1名)の学生の支援を行った。

③個別の教育支援計画に基づき、教育支援センターと連携し、支援の調整に取り組んだ。主な支援内容は、授業の出欠確認での配慮、教室への引率、授業欠席への配慮、スライドの資料配付、課題提出期限延長等である。また、進路における支援として、学生の意向に沿った就職情報の提供を行った。

④学校生活における支援として、2名のカウンセラーによる学生相談を行った。

##### (2) 支援を必要とする学生の早期認定と支援の開始

①障害学生支援の取組みについて、新入生及び保証人に対しては、案内文書や入学前説明会時に周知を図った。

②入学前からの相談を通じて状況を把握できるよう、入試・広報センターと連携を図り、学生及び保証人等から相談を受ける教員と情報共有及び連携をすることにより、早期から支援認定に繋げることができた。



### (3) 相談体制の確保

学生の悩みごとに関する専門的相談窓口として学生相談を運営しているが、カウンセラーが2名体制では相談学生の増加により支援を必要とする学生の相談枠の確保が困難な状況となっていることから学生生活委員会にカウンセラーの相談時間延長の検討を依頼した。結果、カウンセラーの相談時間が令和4年度より各日1時間延長されることとなった。支援を必要とする学生の相談枠の確保に向けてカウンセラーと調整を続ける。

### (4) 就職支援の充実

2回生となった支援学生4名に対し、本人の意向に沿った就職情報の提供を行った。1名は大学への編入を希望し合格となった。1名は資格取得が不可能なことから初任者研修を受講し、自己開拓した施設への就職となった。就職意欲低下の1名に対しては具体的な支援は実施できなかったが、保証人との話し合いを行いハローワークの障害者就労支援担当者に繋ぐことができた。1名は本人の学習意欲低下により卒業が困難となった。

### (5) 教職員の専門的能力開発

コロナ禍において障害学生支援に関する日本学生支援機構発達障害学生の修学支援会議(障害学生修学支援センター長参加)、令和3年度障害学生支援と就労移行に関する情報交換会(障害学生修学支援センター員参加)に参加し、知識向上に努めた。引き続き各種研修会の受講や他校の取組み状況のヒアリング等を行い、学内教職員への情報発信に努める。

(6) 医療機関等による、障がい未認定あるいは障がいがあるのではと思われる学生の支援をなお一層強化するため、学生相談室と連携し、学生が相談室につながる等の支援を行った。また3月にカウンセラーと学生相談の件数や相談内容の動向などについて学生生活委員会研修会で情報共有を行った。

## <就職指導>

### (1) 就職率100%をめざす

令和3年度は、新2回生を対象とした進路希望調査面談を4月から、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のうえ実施した。面談時には就職フェアや企業説明会、他大学のオープンキャンパス等の案内も行ったが、今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、就職フェア等の中止が相次ぎ、オンラインによる説明会が多かった。しかし、オンラインに慣れていない学生が多く、参加する学生は少なかった。また、学外実習の時期も変更になったことで、さらに就職活動始動のタイミングが遅れたと考えられる。[3/31 現在 96.1% (前年同日 94.3%)]

### (2) サポートプログラムを充実させる

1回生科目「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」及び「キャリアデザイン」において、就職活動で必要となる基礎的な学力や知識向上のためのサポートプログラム(就活スケジュールや一般常識、自己理解、面接マナー等)を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をした上で、外部講師を招いた就職関連セミナー(スーツの着こなし講座・就活へア講座)を実施することにより、就職への意識を高めることができた。また教員と連携を図り授業内でキャリア意識を高める取組みをしたことが、学生の就職への意識を高められたと考えられる。

### (3) 学生・キャリア支援センターの就職支援活動を充実させる

多くの学生が資格を活かした就職を目指しているが、中には取得資格に関連しない業種を希望する学生もいる。学生・キャリア支援センターでは、求人票の見方やエントリーシート記入方法や履歴書等の書類作成、面接練習を実施する等、就職支援全般に対応している。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設や園の見学も断念することが多く、受験先を決定するのも困難であった。また、就職活動の始動に踏み切れない学生、資格取得をしない若しくは出来ずに進路変更をする学生、社会参加への意識の低い学生に対しては、

各学科の教員と情報を共有することで学生の状況を把握し、声かけや進路に対する相談にのる等、積極的なサポートに努め、スムーズな進路決定に繋がるように支援した。

(4) 公務員試験対策講座を開講する

公務員を希望する学生への支援を継続的に行っている。学内独自のもの、外部専門業者による2種類の講座を実施した。外部専門機関による講座には6名の学生が参加し、4日間で13コマ受講した。また、学内独自の講座に力を入れ、第1期から第4期(1期は3日間)に亘り実施し、基礎学力の充実及び面接対策、個別のキャリアカウンセリングを行った。

(5) 卒業生と在学生との交流の機会をつくる

卒業生と在学生の交流の機会として、大学祭でのホームカミングデーや同窓会の呈茶席があるが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大学祭は中止となった。今後は、卒業生と在学生が交流することでより良い情報共有や今後の就職活動や進路決定に繋がるように支援を行いたい。

(6) 卒業生に短期大学卒業生調査を行う

令和3年度も卒業生調査を卒業後1年の学生に行った。回答者率は30.1%であった。「卒業した短期大学に取り組んでほしい、または支援してほしいと考えていること」の質問に「仕事に関する悩み相談」が28.1%、「卒業後短期大学とどのようなかかわりを持っていましたか」の質問に「担任以外の教員、職員を訪ねたり連絡をとったりした」31.2%であった。また、「短期大学で学んだ知識や能力はどの程度役立っていますか」の質問に「専門分野や学科の知識が役立った・ある程度役立った」89.3%であった。資格を活かした職業に就職する学生が多く、卒業後も専門的なことや、仕事に関する悩みの相談に来学する傾向があることが明らかとなった。

## 5. 組織・運営に関する事業

### (1) 図書館の運営

#### (ア) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応 継続(令和2年度～)

##### ①開館及びサービス

令和3年度も令和2年度に引き続き、座席指定、閉館後の消毒など感染予防を徹底した上で、学内者に限り図書館サービスを継続した。

##### ②電子書籍の導入

###### a 追加購入

令和2年度に契約した丸善雄松堂(株)の「Maruzen eBook Library(学術書籍に特化した機関向け電子書籍配信サービス)」に、各学科・コースでの導入タイトルの検討を経て、電子書籍13点を追加購入し、3月末には、計34タイトル(図書資料26冊、消耗資料8冊)を提供した。

###### b Maruzen eBook Library 学外からのアクセス

丸善雄松堂(株)から、9月末に「Maruzen eBook Library リファラ認証(ある機関のユーザーのみがログインできるページをリファラURLに設定しておくことで、当該ページからアクセスした場合のみログインできるようにすること)が可能になったとの案内があり、12月に、教育支援センター及び情報メディアセンターと協議の上、「saho-navi 学生支援情報システム(以下「saho-navi」という。)」内にリファラURLを設定することを検討し申請した。

このことにより、「Maruzen eBook Library」のサービスが、学内からの事前リモート登録手続なしで、「saho-navi」を経由すれば学外からも利用できるようになる予定であったが、動作環境が整わず、現在も調整・検討を重ねている状況である。2月末に、丸善雄松堂(株)から新たに「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置に伴う期間限定サービス:外部アクセス用共通ID・PW発行(本学学生・教職員のみ)」のサービス提供があり、当面は、3月末まで「Maruzen eBook Library」の学外からのアクセスが可能となった。

(イ) 学習成果の獲得に必要な授業・学生への支援

①学習資源の整備と充実（課題）

- a 各学科・コースの学修成果獲得のための資料の充実 継続（平成15年度～）  
 国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムへの自館資料のデータアップ 継続（平成21年度～）  
 図書資料784冊、消耗資料279冊、雑誌351冊を受入・装備した。図書・消耗資料については、国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムへデータを追加入力した。
- b 福祉関係資料の独自分類資料及び介護記・闘病記関係資料の充実 継続（平成23年度～）  
 福祉関係独自分類資料を82冊、介護記・闘病記関係資料8冊の収集と装備をした。
- c 学習資源充実のための図書資料の遡及入力及び蔵書点検 継続（平成21年度～）  
 ・令和3年度は、洋書1,543冊を遡及入力し、3階書庫に配架し直した。  
 ・年度末の3月に、退職者及び専任教員全員（研究室貸出該当者：20名）に対し、「研究室貸出資料の点検についてのお願ひ」文書と「個人別研究室貸出資料リスト」を配付し、各教員にリストと現物の照合を求め、点検済みリストを回収した。  
 ・奈良佐保短期大学図書館資料除籍取扱内規」第3条第二号及び第三号の基準に従って、図書・学術委員会で選定された「除籍対象資料」2,683冊を除籍処理した。  
 ・蔵書の棚卸し（在庫確認）  
 「蔵書点検機器ハンディーターミナル」で、令和3年9月末までに約83,000冊の棚卸し（在庫確認）作業に取り組んだ。その後、令和3年度末までに84,523冊（うち廃棄分2,683冊含む）を点検した。しかし、「現物はあるが、データがない」約1,000冊については、資料価値を鑑みながら、遡及入力または廃棄処理いずれかの判断をした上で作業を進める必要がある。また図書台帳と図書館システムデータの照合作業を行うなど、全蔵書棚卸し後の継続した整理業務が必要である。
- d 本学レファレンス記録の保存 継続（平成24年度～）  
 今後の利用者サービスに活かすため、本学レファレンス記録の保存に努めた。1年間で102件の事例を記録した。
- e 学生・教員の学修・研究を支援する相互利用の推進 継続（平成21年度～）  
 国立情報学研究所 NACSIS-CAT/ILL システムを活用し、他大学との文献複写、相互貸借を行った。件数は、文献複写（受付4件、依頼12件）、相互貸借（貸出0件、依頼1件）であった。

②学習方法の支援（講習会）

- a 「新入生向け図書館利用ガイダンス」 継続（平成18年度～）  
 館内で希望者に実施していた「新入生向け図書館利用ガイダンス」は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、開催を見合わせたが、「新入生オリエンテーション」内で動画による説明を行った。
- b 1回生対象「文献の探し方」講習会 継続（平成19年度～）  
 教員から依頼のあった各学科・コースの1回生対象に、「文献の探し方」講習会を実施した。  
 講習内容は、図書館の使い方及びオンラインデータベース「Japan Knowledge」「聞蔵」「カーリルの使い方、「レポートを書くために使った情報源を参考文献リストに書くときは、どうすればいいの？本の場合、雑誌の場合」資料を使った参考文献の書き方等の講習、令和2年度から購入している「電子書籍」の使い方等であった。

4月8日（木）1時限	「基礎ゼミナール」	食物栄養コース1回生 18名
4月8日（木）2時限	「基礎ゼミナールⅠ」	地域こども学科1回生 35名
4月8日（木）3時限	「基礎ゼミナールⅠ」	地域こども学科1回生 34名
4月15日（木）1時限	「基礎ゼミナール」	食物栄養コース1回生 18名
4月20日（火）2時限	「基礎ゼミナール」	生活福祉コース1回生 7名

- c 2 回生対象「卒業研究・事例研究のための文献の探し方」 継続（平成 19 年度～）  
b の講座内容を踏まえつつ、参考・引用文献の書き方、「CiNii Articles」「グーグルスカラー」の使い方等、主に論文執筆に向けて必要なスキルを中心に講習会をした。

7 月 2 日（金）1 時限	生活福祉コース「介護総合演習Ⅲ」	14 名
----------------	------------------	------

③授業・教員との連携 継続（平成 19 年度～）

- a 図書館システム Lib Max の“ブックリスト機能”を活用した授業との連携 継続（平成 21 年度～）  
図書館システムの“ブックリスト機能”を活用した所蔵資料のブックリストを作成し、併せてその関連資料を館内に展示するなど効果的な学習支援に努めた。
- b きらっと図書館講座の開催 継続（平成 17 年度～）  
新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、実施を見合わせた。
- c 授業制作物の館内展示 継続（平成 22 年度～）  
地域子ども学科教員の指導の下に制作した「自己紹介カード」「布製手づくりカバン」及び食物栄養コースによる給食管理実習のレシピや卓上カードなどを記録したファイルなどを館内展示した。
- d 「図書館を活用した授業実践例」データの蓄積 継続（平成 25 年度～）  
「図書館を活用した授業実践例」を 21 件集積した。
- e 「授業科目レポート課題履歴」及び「奈良佐保短期大学教材データベース」データの蓄積  
継続（平成 26 年度～）  
「授業科目レポート課題履歴」を 25 件、「奈良佐保短期大学教材データベース」データを 26 件集積した。

④学修成果の獲得に必要な具体的支援策の模索 継続（平成 26 年度～）（課題）

令和 2 年度に集積した「図書館を活用した実践例（まとめ）」「奈良佐保短期大学教材データベース」「授業科目課題履歴」データを公開し、令和 3 年度も引き続きそれらのデータを集積した。令和 2 年度「生活未来科生活福祉コース事例研究集」に掲載された「論題及び引用・参考文献リスト」を作成し公開した。

(ウ) 学修成果の獲得のための学生支援

①他部署・学科と連携した就職支援、学生支援の検討

- a きらっと図書館講座の開催 継続（平成 17 年度～）  
令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本学生活未来科生活福祉コース教員、本学非常勤講師で、事前録画した講座内容「福祉施設における音楽レクリエーションの実際」（施設で好まれる曲、選曲方法の講義及び選曲した曲のピアノ弾き歌い）を DVD に記録し、時間を 90 分に拡大して、生活福祉コース学内実習授業内で動画視聴にて開催した。

6 月 7 日（月）13：00～14：30	生活福祉コース 1 回生 学内実習	19 名
-----------------------	-------------------	------

- b 「としよかん de カフェ：Xmas バージョン」の開催 継続（平成 28 年度～）  
新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、開催を見合わせた。

(エ) 学修成果獲得のための学習環境の整備（課題）

①学習環境を整えるための館内整備及びグループ学習室の整備 継続（平成 25 年度～）

- a 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応
- ・3 つの密（密閉・密集・密接）を避けるため、館内席数を半減
  - ・ロッカー番号による座席指定
  - ・閉館後の消毒
  - ・入口の手指消毒用アルコール設置
  - ・カウンターの飛沫防止フィルム設置等の感染対策をとった。

(オ) 地域公開 継続（平成 25 年度～）

- ①令和 2 年度から学外者の構内立ち入りを制限しているが、事前連絡なしの来館があり、閲覧のみ短時間の利用とした。一般利用者の利用は、4 日 7 名であった。
- ②“奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO”のサービス提供 継続（平成 20 年度～）

“奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO” に対し、毎月絵本を中心とした資料（月 30 冊）の団体貸出を行った。

(カ) その他（課題）

卒業対象者・未返却者に対する対応策について 継続（平成 26 年度～）

未返却者に対して 12 月から授業内で教員から督促状の手渡しや、図書館員による督促状の手渡し及びメールや自宅へ電話督促を行うことで、2 月時点では未返却者は 0 名となった。

(キ) 歴史的文書の収集・保存研究（課題）

令和 2 年度は、全蔵書の棚卸し作業に専念する必要があるため、大学保存文書等の継続調査は見送った。

(ク) 図書・学術委員会

① 図書館運営のための必要な審議

a 1 年間購読雑誌の見直し 継続（昭和 41 年度～）

b 除籍対象資料の選定と承認 継続（平成 18 年度～）

c 図書館資料の選定 継続（昭和 40 年度～）

② 「奈良佐保短期大学機関リポジトリ」へのデータ登録 継続（平成 27 年度～）（課題）

「奈良佐保短期大学機関リポジトリ」に新規登録分（29 号）のデータ登録をした。

(2) 自己点検評価室の運営

(ア) 自己点検評価室の取り組み

教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、本学の教育の向上・充実に資するとともに、評価システムや評価の結果を公表することによって広く社会の理解と支持を得ることを目的とする。本学の理念や教育目標などあらゆる分野を対象として、その達成状況を検証し、改善に向けた検討を行う。

今年度は例年の活動に加えて、短期大学認証評価の受審に関する活動を中心に行った。

① 令和 3 年度短期大学認証評価の受審について

令和 3 年 8 月 23 日（月）、24 日（火）、令和 3 年度短期大学認証評価の受審をした。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中でのオンライン会議システム（ZOOM）による調査であったが、本学の教育活動を中心として、教育研究、組織運営、施設設備、財務等の取組みを伝えることができた。

一部の改善計画書及び学長の決意表明等の提出を行い、成果が認められて認証された。

（令和 4 年 1 月 12 日付け）

認証評価は本学の課題を共有し、評価員の方々とも短期大学の現状を確認できる良い機会になった。過去からの経常収支の支出超過や入学生数減の課題は改めて本学全員で共有できた。

(イ) 研修会

自己点検・評価活動に対する認識を深め、参加者への意識も高めるために、関心のあるテーマ、参加しやすい日時での実施、併せて活発に意見交換ができる環境を整えている。

令和 3 年度は自己点検評価室としての研修会は行っていないが、FD 推進委員会・SD 委員会が中心となり、3 度の研修会を実施した。

① FD 推進委員会・情報メディアセンター運営委員会共同開催研修会

内容 リスクマネジメント

日時 令和 3 年 8 月 26 日（木） 13 時～14 時

対象 教職員

講師 川崎 敬二 氏（奈良佐保短期大学情報メディアセンター長）

参加 45 名

詳細 情報セキュリティ関連の研修会については、ICT 化が進んでいく中で、必要な知識・情報であることから、例年実施しているものである。今回は、令和 2 年度に実施した「情報セキュリティ」研修会の内容をより発展させたテーマで実施した。各自が学内で起こりうるリスクを意識し、

それを回避するためにはどのような行動が必要かを考える機会とし、危機管理意識を高めるためのきっかけづくりとした。

②FD 推進委員会・SD 推進委員会共同開催研修会

内容 大学・短期大学の教育活動と著作権  
日時 令和3年10月25日 13時～14時半  
対象 教職員  
講師 大和 淳 氏（福岡教育大学 教授）  
参加 43名

詳細 「大学・短期大学の教育活動と著作権」をテーマに学外から講師を招き FD 推進委員会・SD 推進委員会が合同で、対面及びオンラインのハイブリッド形式で実施した。本学では Chromebook の導入が始まり、授業の中で UNIPA(saho navi)や Google クラブルームを使用する機会が増え、また平成30年に著作権法が改正されたこともあり、その中で教育活動を実施していくにあたり、こういった注意が必要なのかを再認識する機会となった。

③SD 委員会・人権教育推進委員会共同開催研修会

内容 人権について、一から考える ～ええもんはええ、あかんもんはあかん～  
日時 令和3年10月25日（月）15時～16時  
対象 教職員  
講師 倉田 清 氏（奈良佐保短期大学 事務局長）  
参加 45名

詳細 令和3年度教職員の人権意識の向上を目的に、対面及びオンラインのハイブリッド形式で実施した。令和4年度以降についても、引き続き人権研修・人権教育を効果的に実施する必要がある。令和3年度教職員の人権意識の向上を目的に、対面及びオンラインのハイブリッド形式で実施した。

(ウ) FD 推進委員会の取り組み

FD 推進委員会は例年、学修成果に関する調査及び公開授業、FD 研修会の内容等について検討している。今年度はそれに加えて、学修成果に関する調査と GPA を重ね合わせた分析を試みた。

①学修成果に関する調査Ⅰ（旧 授業アンケート（学生））・ティーチングポートフォリオ

a 第1に学生への学修成果のフィードバック

今年度は、学生一人ひとりの調査結果の平均値を割り出し、学科・コースの平均値と比較することで自身の学修成果を振り返る機会をつくり、併せて担任及びPTから指導する機会を作った。自分の学修成果を可視化させることで、学生が教育理念及び学修成果を改めて振り返り、次の段階へすすめるように促した。

b ティーチングポートフォリオの作成

学生だけではなく教員にも自身の授業成果等の振り返りを実施してもらうことを目的としている。各授業のシラバスと学生の調査結果をもとに自身の授業成果を考察し、責務・理念等をまとめティーチングポートフォリオの作成をおこなった。

c 学修成果に関する調査の教務システムの試験的利用

教務システム saho navi を使用することで早くフィードバックできること等の利点が多くあったことから、次年度からは本格的に運用し、経費削減・事務処理の軽減を進めていくこととした。

上記とは別に、今年も昨年同様、学修成果に関する調査に記入された自由記述での意見を審議し、学生に回答が必要と判断した意見について、担当者に回答を依頼し、集約した。加えて、まとめた回答を次回の調査実施期間と合わせて教育支援センターの掲示板に掲示した。

②学修成果に関する調査Ⅱ

今年度は、学修成果に関する調査の個人を特定できるデータがそろったことから、IR 推進委員会によってクリーニングされたデータを用いて初めて分析を行うことができた。分析結果は『経年報告書(2018-2020)』

として自己点検評価室に提出されている。

様々な考察がされたが、「自律の精神に則り自己管理ができる」ということをはかる質問項目をみると、欠席が少ない学生ほど欠席した際に何等かの対処をすることや、生活福祉コースは年間を通して学修成果に関する達成の度合いが高いこと、ビジネスキャリアコースの学生については、1回生時は学修成果の達成の度合いが低い、2回生にかけて徐々に値が伸びていくうえ、その値は年々上昇傾向にあることを明らかにした。

事前・事後学修については、大学設置基準が基準として定める時間に満たないことが課題であることを記した。この分析結果をうけて、令和3年度後期の学修成果に関する調査について、事前・事後学修に関する質問項目を順序尺度から比例尺度に変更した。令和3年度後期分析の結果、生活未来科に比べて地域こども学科の事前・事後学修時間が明らかに短いことが分かった。

### ③公開授業

令和3年度は昨年度までと違いテーマを決めず、より多くの教職員に参観してもらえよう参観科目を増やし公開授業を実施した。その結果、昨年度より参観者も増え、一人の教職員が複数の授業に参観する様子もみられた。今年度も対象を理事、監事、評議員及び非常勤講師とし、理事会等で周知をおこなった。公開授業に関するアンケートを実施すると、参観科目を増やしたことにより参加しやすくなった（参加しやすい）との回答が7割以上あったため、次年度は、全専任教員による公開授業を実施していきたい。ただ、参観科目を増やしたことにより、報告会での一人当たりの報告時間や意見交換の時間が少なくなってしまったので、再度時間設定などについては、検討が必要である。また、検討会・報告会ではテーマを決めて話し合った方が討論しやすいとの意見も見られた。

## (3) 情報メディアセンターの運営

### (ア) 遠隔授業対応

#### ①実施内容

本年度は、1回生全員に、一人1台Chromebookを携帯した授業運用を行った。これに伴い、授業形態も紙による資料配布から、オンライン電子配布又はデータ共有を積極的に実施し、また、一部WEB授業+リアル授業のハイブリッド授業を試みる等大きく変化した。

#### ②課題

- ・2回生はChromebookを持っていないため、従来の授業形態と新しい形態の2種類対応しなくてはならない先生方もおられ、過渡期とはいえ複雑な対応を強いることとなった。
- ・授業によっては、chromeOSでは対応できないツールもあり、一部WindowsPCも併用する等煩雑さは残った。
- ・以前ほど資料印刷の機会は削減されたが、年度の途中から、Googleの方針で、通常プリンタではChromeOS上の資料が印刷できなくなり、急遽クロムOS対応プリンタを準備した。

#### ③改善策

- ・令和4年度新入生も一人1台Chromebookの形態を必須化するので、学生全員が同一のPC環境となる予定
- ・WindowsPCは、30台ほど残さなければならず、リース残存期間があるWindowsPCで運用する予定（令和3年度は約107台⇒令和2年度約40台に削減予定）
- ・chromeOS対応プリンタの購入検討

### (イ) 学生用情報システムの整備

#### ①実施内容

現在、学内に学生用のパソコンを107台設置しているが、学生用PCにスタートメニューが出ない/プリンター候補が出ないとの不具合が発生した。そのため、最新OS環境にするためにWindows10のバージョンア

ップを実施。但し、2割ほどのPCがバージョンアップできずに、課題を残した。

#### ②課題

上記に記載したが、107台の内64台は、令和4年3月末にリース期間が満了する予定。また、常時学生がWindowsPCを利用する機会は少なくなるため、残りの43台で、運用を継続する。

但し、残りの43台も令和5年3月末にリース期間が満了するので、今後の運用を検討する必要がある。

PCの利用を抑制するツールも同時に無くなるため、運用方法を検討する必要がある。

#### ③改善策

- ・Windowsのツールで比較的負荷の軽いものは、既存の43台を利用。使用負荷の重たいツールは、別途購入しているWindowsノートPC(10台)+各教室用ノートPCを利用する。

- ・SKYSEAというソフトで、PCの不正利用を検知する方法に変更。

#### (ウ) 無線LAN環境の増強

学内の情報機器を接続する無線LANのネットワーク環境について再構築。

#### ①実施内容

文部科学省の遠隔授業用補助金を利用して、旧WIFIアクセスポイント機器の置き換えや新規に導入し、10か所の整備を行った。(12月に5か所、3月に5か所、計10か所)

ほぼ、授業でWIFIを使うであろう教室には設置完了した。

#### ②課題

令和3年度は1回生のみ学生全員にChromebookを携帯させたが、令和4年度は1,2回生全員がChromebookで授業を受けることになるので、現行のWIFI環境がどれだけ耐えられるのかが予測不能

#### ③改善策

WIFI環境に関して随時様子をみながら対策を考慮していく。

#### (エ) ネットワーク機器を始めとするIT機器の刷新

ネットワーク機器の老朽化が進んでおり、最新機器に入替の検討が必要

#### ①実施内容

コアスイッチ(L3スイッチ、購入後13年経過)が、数度ダウンしたため、文部科学省の遠隔授業の補助金を使って導入(3月)

また、教職員が利用しているデータサーバーが7年目にはいるので、導入検討を開始

#### ②課題

今年度から、教員はchrome環境を利用する頻度が多くなり、Googleのクラウド環境を利用してきており、現状の利用状況に合わせて、メモリ容量、ストレージの大きさを決める必要がある。

#### ③改善策

令和5年3月に完全入れ替えが完了する予定で、機器メーカーと詰めていく。(機器導入から通常運用まで約半年必要)

#### (オ) その他の取組み

①文部科学省の遠隔授業の補助金交付に向けた対応。

②Chromebook購入方法を、専用購入サイトから購入するように変更

③FD運営委員会にて、リスクマネジメント研修を実施

④大学のWEBサイト関連の再構築に向けた取組み



#### (4) IR 推進室

IR 推進室は教育成果の可視化と質的転換等の改革を目的に次のことを実施した。

##### (ア) データの集約と分析

①例年、各部署からデータ（教育、入試、財務情報等）収集している。今年度は認証評価受審にむけて自己点検評価室を中心に行った。

②GPA と本学で実施している複数の調査結果をつなぐデータ分析である。

昨年度同様、データクリーニングを行い、短期大学生調査と学修成果に関する調査、GPA の結果を分析できる形にまで整えた。クリーニングしたデータについては IR 推進室員が自由に分析できるようにした。今年度はクリーニングしたデータは、FD 推進委員会及び自己点検評価室の分析で用いられ、結果については教授会等に報告された。この結果は学科会議等で提示され、内容の検討が行われた。

##### (イ) 私立大学等改革総合支援事業補助金の調査票項目の進捗状況の確認

例年は補助金獲得に向け、また教育の質的転換等の改革に全学的・組織的に取組むため、私立大学等改革総合支援事業の質問項目について取組みを行っているが、補助金獲得には至っていない。

##### (ウ) 研修会

①第 3 回 外部アセスメント活用オンラインセミナー ～IR 組織を軸とした、アセスメントプランの策定・評価・測定と部署間を越えた活用に向けて～

【日時】令和 3 年 7 月 16 日（金）16:00～17:00

【講師】佐野健太郎氏（駒澤大学 学長室 学長企画課 大学 IR 係）

【参加】IR 推進室 中田奈月

##### 【講演概要】

- ・内部質保証にむけた体制構築の方法
- ・アセスメントプランの各部局への活用設計
- ・アセスメントプランの活用による 3 ポリシーの検証

②2021 年度 教育の質保証・質向上オンラインセミナー 『学修成果の可視化』の後にすべきこと』策定・評価・測定と部署間を越えた活用に向けて～

【日時】令和 3 年 7 月 21 日（水）16:00～17:00

【講師】佐藤浩章氏（大阪大学全学教育推進機構）

【参加】IR 推進室 中田奈月

##### 【講演概要】

- ・教学マネジメントとは何か
- ・教学マネジメントの 4 層モデル
- ・PDCA から M/PDCA モデルへ
- ・カリキュラム評価の基本的視点
- ・カリキュラム評価の 3 段階
- ・カリキュラム評価を活かす組織デザイン
- ・メタ学習のルーティン化

#### (5) 防災対策・環境

##### (ア) 施設設備の視点から見た維持・管理

①危険予知シート・気がかりシート

教授会・事務連絡会議において施設設備の危険箇所洗い出しの協力依頼をした。

②学習環境改善のためのワックスがけ

令和3年度は、教室のワックスがけが実施できなかった。ワックスがけをするためには、机や椅子の移動・剥離・乾燥・ワックスがけ・乾燥の工程が必要であり、連続して3日間を要する。今年度、連続して3日間の空きがある教室がなかったため実施できなかった。

③冬季の構内環境の改善

冬季は校舎周辺が暗く、寂しさを感じるため、学生が帰る時、少しでもほっこりしてほしいという思いから、玄関にハロウィン・クリスマスや正月の装飾を施し、LED電飾も施した。

(イ) 地域と共にある大学の視点から見た取組み

①地域防災避難訓練

「安全で安心なまちづくり」を推進するため、地域住民参加型の地域防災避難訓練を実施した。本学4回目の取組みで、本学の専門性を活かした避難所体験を計画した。

回数・年度		第1回 平成30年度	第2回 令和元年度	第3回 令和2年度	第4回 令和3年度
実施日		11月24日 (土)	9月28日 (土)	新型 コ ロ ナ 感 染 症 感 染 拡 大 で 中 止	10月2日 (土)
参 加 者 数	参加者合計	251名	380名		295名
	学内合計	95名	149名		164名
	学生	60名	113名		123名
	教職員	35名	36名		41名
	学外合計	156名	231名		131名
協力団体		奈良市・奈良市消防局・奈良警察署・奈良県栄養士会・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団	奈良市・奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ダイドードリンコ	奈良市・奈良市消防局・自衛隊・奈良県栄養士会・消防団・鹿野園町自治会・鹿野園町自警団・ダイドードリンコ・ネットヨタ奈良	
取組内容		①地域間取調査結果の報告 ②炊き出し訓練(300食：おにぎり・豚汁)と試食 ③段ボールベッドの組立体験 ④段ボールの簡易トイレの組立体験 ⑤段ボール間仕切りの組立体験と間仕切り快適空間調査 ⑥防災食の調理と試食 ⑦AEDの操作体験	①地域調査結果の報告 ②炊き出し訓練(400食：カレーライス)と試食 ③段ボールベッドの組立体験 ④段ボールの簡易トイレの組立体験 ⑤防災食の調理と試食 ⑥AEDの操作体験 ⑦応急担架の作り方と搬送法の体験 ⑧新聞紙・折り紙でできる遊び、絵	①地域調査結果の報告 ②炊き出し訓練(350食：カレーライス)と試食 ③段ボールベッドの組立体験 ④段ボールの簡易トイレの組立体験 ⑤防災食の調理 ⑥AEDの操作体験 ⑦応急担架の作り方と搬送法の体験 ⑧車椅子操作体験 ⑨紙工作・紙芝居・楽器演奏・絵本の読み聞かせ ⑩エコノミークラス症候群予防運動体験 ⑪新聞紙でつくるスリッパ等の製作体験 ⑫防災グッズ展示(大島商会) ⑬備蓄防災食配布(奈良市)	

	<p>⑧新聞紙・折り紙 でできる遊び、絵 本の読み聞かせ等</p> <p>⑨エコノミークラ ス症候群予防運動 体験</p> <p>⑩防災グッズ展示 と備蓄防災食配布 (奈良市)</p> <p>⑪パッキングッキ ング(奈良県栄養士 会)</p> <p>⑫ドクターヘリ は、緊急要請のため 飛来せず</p>	<p>本の読み聞かせ、 カプラー等</p> <p>⑨エコノミークラ ス症候群予防運動 体験</p> <p>⑩新聞紙でつくる スリッパや避難用 リュック体験</p> <p>⑪防災グッズ展示 と備蓄防災食配布 (奈良市)</p> <p>⑫パッキングッキ ングと災害支援車 (奈良県栄養士 会)</p> <p>⑬ロープワークと 災害時に必要なノ ウハウと人命救助 装備品(自衛隊)</p> <p>⑭飲料水提供(ダ イドードリンコ)</p> <p>⑮ドクターヘリ は、無事に本学グ ラウンドに着陸 し、多くの方が機 内を見学</p>		<p>⑭パッキングッキ ングの演示(奈良県 栄養士会)</p> <p>⑮ロープワークと災害時に必要なノ ウハウと給水車(自衛隊)</p> <p>⑯飲料水提供(ダ イドードリンコ)</p> <p>⑰外部給電可能車両「ミライ」の展 示(ネットヨタ奈良)</p> <p>⑱ドクターヘリは、緊急要請のため 飛来せず</p>
避難所運営班名	<p>①総務班、 ②名簿班、 ③食料班、 ④物資班、 ⑤救護班、 ⑥衛生班、 ⑦連絡班、 ⑧屋外班、 ⑨体験班、</p>	<p>①総務班、 ②名簿班、 ③食料班、 ④物資班、 ⑤救護班、 ⑥衛生班、 ⑦連絡班、 ⑧屋外班、 ⑨体験班、</p>		<p>①総務班、 ②名簿班、 ③食料班、 ④物資班、 ⑤救護班、 ⑥衛生班、 ⑦連絡班、 ⑧屋外班、 ⑨体験班、</p>
研修手法	ブラインド研修	ブラインド研修		ブラインド研修

②花いっぱい運動

「花のあるまちづくり」を推進するため、学内農園で草花の種まきから栽培して、本学所在の奈良市鹿野園町を中心に草花苗を配布した。(ボランティア学生が各家庭を訪問し、草花苗を無料配布)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
夏	マリーゴールド 800ポット	マリーゴールド 1800ポット	ケイトウ 600ポット	マリーゴールド 2500ポット
冬	ハボタン 200株	ハボタン 400株	ハボタン 100株	ハボタン 400株

参加学生数 延べ人数	33名	30名	20名	30名
備考	大量配布 鹿野園町 護国神社・和楽園・ 生駒幼稚園等	大量配布 鹿野園町 護国神社・和楽園・ 生駒幼稚園・河内長 野幼稚園・実習先保 育所等	大量配布 鹿野園町 生駒幼稚園・護国神 社・和楽園 学内大型花壇にケイ トウとハボタンを幾 何学模様で植栽	大量配布 鹿野園町 生駒幼稚園・護国神社・ 和楽園 学内大型花壇にマリーゴ ールドを幾何学模様で植 栽・小型花壇に仕掛け花 壇とした

※学内大型花壇にハボタンを植栽したが、鹿による被害を受けてしまった。

③ドクターヘリが着陸する地点及び救急車との合流する場所（以下「ランデブーポイント」という。）に指定

地域防災避難訓練の活動が契機となり、本学は令和2年8月1日（土）にドクターヘリのランデブーポイントに指定された。指定と同時に、緊急要請が入った場合の対応マニュアルを作成し教職員で共有化した。指定後、初めて令和3年12月20日（月）13時頃にドクターヘリの緊急着陸要請が入り、マニュアルに従い円滑な受入れ及び救急車が速やかに合流し、地域住民の救命救急業務が的確に行われた。

(ウ) 学内景観の視点から見た維持・管理

①ピオトープ周辺

樹木を低く、笹や雑草も早期に刈り払い、眺望のいいレストランの名にふさわしい景観にする。草文字「SAHO」の維持管理に努める。年間を通して、雑草の管理ができた。自走式草払機の購入で、より効率よく管理できるようになった。

②庭木剪定

正門周辺から遊歩道に沿った樹木を低めに剪定し、清潔感のある広大な敷地に見えるように維持した。

（松・サザンカ・クチナシ・ツツジ・サツキ等）

道路と校地の境界に植栽された樹木は、低めに管理し、地域住民が見て清潔感があり親しみを感じる大学に見えるよう維持した。（シラカシ）学内には自然に生えた樹木が多く、その樹木が大きくなりすぎているため、年次進行で伐採もしくは徐々に小さく切り詰めた。（ピラカンサ・カリン等）中庭の柳伐採跡地に作成した小型花壇4基を「花言葉花壇」や「仕掛け花壇」として管理した。

広報ボランティアに加えて、地域こども学科の自然と遊びフィールドの学生が、庭園管理の実習の一環で学内樹木の剪定をした。

③本学バス停からの入口周辺

令和2年度、植栽計画を小山から大型花壇に変えて夏はマリーゴールド、冬はハボタンを植栽した。しかし、冬は鹿や猪の害が大きく、夏だけの栽培にした。

④旧焼却炉周辺の竹や雑木の伐採

雑木3本を伐採し、竹を間引きして正常な株間にした。今後も年次進行で間引き範囲を拡大していく。

(エ) 学内農園活用の視点から見た維持・管理

①学内農園の栽培計画

食物栄養コースが調理実習に使用する食材（葉菜類・果菜類・根菜類）を延べ60畝を利用して栽培した。調理実習の食材以上に収穫できた場合は、学生レストランに無償で提供した。

地域こども学科自然と遊びフィールドがトマト・ピーマン・サツマイモ・スイカ・ラッカセイ・ヒョウタン・ヘチマ等を延べ20畝を利用し栽培した。収穫物は、焼き芋体験やヒョウタンランタンやヘチマたわしに利用した。学生があまり目にする機会のないバナナやサトウキビを栽培し、観察できるようにした。

令和2年度は、学内農園がイノシシやアライグマの被害を受けた。その防止のため、ネットフェンスの補

強を行った。また、奈良市からワナを借りてしかけたが、残念ながら捕獲できなかった。

新型コロナウイルス感染症でアルバイト収入が減っているため、野菜・草花苗とサニーレタスとハクサイを学生に無償提供した。

以上のように、学内農園敷地全面で栽培した。

#### ②学内農園の地力向上

元肥は本委員会では準備して、地力向上に努めた。学科の個別栽培に必要な消耗品（種子・追肥）は、学科の費用で対応することとした。有機質肥料を年次進行で投入したい。

#### ③天候に左右されにくい授業展開の整備

ビニルハウスを活用してトマト栽培をした。次年度の栽培に向けて電熱温床を設置しトマト・ナス・ピーマンの苗作りを始めた。

#### ④小農具の整備

保管場所の整備をした。

#### ⑤耕耘・除草等の管理

現有の耕運機は小型であるため、耕耘深度が浅いため、複数回耕耘して耕耘深度を確保する必要がある。また、ロータリー幅が短いため効率が悪い。空き時間を利用して耕耘するには難しい状況である。年度末に中古小型乗用トラクターを寄付していただいた。草払機や除草剤を組み合わせ、年間を通して雑草の管理ができた。

#### ⑥農園拡張工事

農園と体育館の間の土地が湿地であるため、良質の残土を無料で提供してくれる業者等を探し、造成している。現状以上、土を入れるためには擁壁工事が必要である。擁壁工事の予算要求をする。

#### (オ) 緊急時の教職員及び学生の安否確認の視点から見た訓練

##### ①安否確認メールの返信率向上

教職員・学生に対して、年2回、安否確認メールの返信訓練を実施している。新型コロナウイルスの関係から遠隔授業で活用されたGoogleフォームを使って安否確認を行った。返信率向上が課題である。あらゆる機会に安否確認メール返信訓練の重要性を周知して返信率を高めるため、教授会で周知の協力依頼をした。

#### (カ) 学内避難訓練の視点から見た訓練

雨天によるグラウンド状態が悪くなかったため、通常のグラウンドへの避難訓練は中止した。しかし、非常時の備えとして、教室でのシェイクアウト訓練と紙上避難訓練を実施した。

## 6. 社会や地域への貢献に関する事業

### (1) 地域・国際センターの運営

#### (ア) 職業実践知の接点から見た地域連携

##### ①公開講座 夢の丘 SAHO セミナー 知の扉 継続 (平成 15 年度)

a 参加者：累計 28 名 (視聴回数 440 回)

b 実施時期：8 月 4 日 (水) ～2 月 12 日 (土)

c 実施回数：7 回

	タイトル・日時	募集定員	講師名	参加者数
1	もしもの時のために・・・みんなで作ろう！防災食！ 8 月 4 日 (水) 10:00～13:00	12 名	飯田 晃朝	10 名
2	絵本と音楽の融合によることば表現—絵本オペラの世界— 8 月 21 日 (土) 10:00～12:00	20 名	石上 浩美	3 名 (視聴回数 370 回)
3	ワンポイント介護技術 ～立ち上がり～ 8 月 28 日 (土) ～9 月 4 日 (土) オンデマンド配信	一名	武田 千幸	視聴回数 70 回

4	判断力を養う～避難所運営ゲームに挑戦！～ 9月2日（木）10:00～12:00	10名	木田 一芳	5名
5	スクワット運動の基礎 9月3日（金）10:00～12:00	10名	大石 祥寛	9名
6	バンブーランタンづくりにチャレンジ！ 10月24日（日）10:00～12:00	6名	木田 一芳	5名
7	冬野菜とだしを味わう 2月12日（土）10:00～13:00	16名	島村 知歩	中止

d 公開講座（講座数と総参加者数）の推移

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
講座数	10回	5回	8回	8回	9回	7回
総定員	—	139名	185名	156名	—名	74名
総参加者	240名	148名	92名	138名	—名	28名

②開放授業 継続（平成20年度～）

- a 参加者：前期1名、後期2名、合計人数3名  
b 実施時期：通年  
c 実施回数：前・後期ともに2回開講した。

分類	前期		分類	後期	
	聴講科目	履修者数		聴講科目	履修者数
介護・福祉	認知症の理解 I	1名	食	フードスペシャリスト論	1名
			ビジネス	事業計画論	1名

d 開放授業（参加者数）の推移

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
前期	9名	8名	2名	1名	—名	1名
後期	6名	5名	1名	1名	—名	2名
総参加者	15名	13名	3名	2名	—名	3名

③履修証明プログラムの実施 継続（平成21年度～）

- a 令和3年度は履修証明プログラム①「ピアヘルパー養成プログラム」②「奈良を学ぶプログラム」③「認定ベビーシッター養成プログラム」④「介護職員初任者研修」を募集した。  
b 履修者：3名  
c 履修証明プログラム（参加者数）の推移

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総参加者	0名	0名	0名	1名	—名	3名

④教育訓練給付制度講座指定 継続（平成30年度～）

- a 介護職員初任者研修課程を地域に還元し、キャリアアップ、専門性の向上、再就職、資格取得のための学習の場を提供する。平成30年度より従来から実施している介護職員初任者研修課程を教育訓練給付制度講座の指定を受けている。令和3年度は、その更新時期を迎え手続きを行い、引き続き指定を受けることができた。  
b 教育訓練給付制度受講及び給付対象者：3名  
(イ) 高等学校との接点から見た地域連携

①出張講義 継続（平成24年度～）

本学が発行している出張講義一覧からの申し込み

②体験授業 継続（平成 24 年度～）

高等学校（進学者の仲介によるもの含む）からの申し込み

③連携高校 継続（平成 21 年度～）

県立：奈良朱雀高校、高円高校、二階堂高校、磯城野高校、榛生昇陽高校

私立：奈良文化高校、あべの翔学高校、興國高校

	学校名		内容	担当
1	奈良文化高等学校	連携校	出張講義・実習	食物栄養コース 地域こども学科
2	奈良県立高円高等学校	連携校	出張講義	地域こども学科
3	奈良県立大宇陀高等学校		出張講義	地域こども学科
4	奈良県立磯城野高等学校	連携校	機械入浴の講義・実習	生活福祉コース
5	奈良県立二階堂高等学校	連携校	研究発表の指導講評	食物栄養コース ビジネスキャリアコース

(ウ) 自治体等との接点から見た地域連携

①奈良県教育委員会の教職員研修講座 継続（平成 24 年度～）

公開講座の一部（3 講座）を奈良県教職員研修講座と連動して開催する。

令和 3 年度は、1 講座に参加があった。

②なら子育て大学の委託講座 継続（平成 24 年度～）

公開講座の一部（3 講座）をなら子育て大学の委託講座と連動して開催する。

奈良県 1 市町村から依頼があり、講演を行った。

③企業との商品開発 継続（平成 30 年度～）

募集をしたが、応募者はいなかった。

④各種団体との協働 継続（平成 30 年度～）

新型コロナウイルス感染症防止のため中止した。

(エ) 国際交流の接点から見た国際連携

①交換留学生 継続（平成 22 年度～）

閩南師範大学：半年間、大連大学：1 年間

新型コロナウイルス感染症の関係から令和 3 年度は交換留学生は入国できなかった。

令和 3 年度も出入国在留管理局から「適正校」の認定を受けた。

②海外からの訪問団・外国人留学生の問い合わせ

a 令和 3 年度入試で入学した外国人留学生数（国内居住者も含む）

別科	国籍	人数 (名)
	—	—

本科	国籍	人数 (名)
	ベトナム	11

b 令和 3 年度外国人留学生の在籍状況

	年次 (回生)	国籍	人数 (名)
本科	2	ベトナム	11

	年次 (回生)	国籍	人数 (名)
本科	1	ベトナム	11
		バングラデシュ	2

合計 24 名

	国 籍	人 数 (名)
別科	—	—

合計 0 名

c 海外からの訪問団

海外からの訪問依頼はなかった。

(オ) 地域住民の接点から見た地域連携 (再掲 5 - (5) - (イ) - ①、②)

入試・広報センターと防災・環境委員会と協働で実施している。

①花いっぱい運動 継続 (平成 30 年度～)

平成 30 年度より開始した花いっぱい運動は、「花のあるまちづくり」を推進するため、学内農園で草花の種まきから栽培して、地域に草花苗を配布した。(年 2 回配布：マリーゴールドとハボタン) 大変好評であった。

学内の大型花壇に夏はマリーゴールドを植栽した。また、玄関にハボタンを植え付けた大型植木鉢を据え付けた。

②地域防災避難訓練 継続 (平成 30 年度～)

「安全で安心なまちづくり」を推進するため、地域住民参加型の地域防災避難訓練を実施した。今年で 4 回目の取組みである。本学の専門性を活かした避難所体験を設定した。毎年、ステップアップしながら継続実施する計画である。このような経験を積み重ねることで、防災意識を持った学生を地域に輩出したい。

③地域人材による専門性の拡幅化 継続 (令和元年度～)

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、ゲストティーチャーの招聘を中止した。

(カ) 卒業生・在学生による専門職人材バンク [夢の丘 SAHO 人材バンク] 継続 (令和元年度～)

①専門的な知識・技術・様々な経験を有する卒業生・学生の人材バンクを創設し、その登録者と地域住民 (高校生・社会人) をつなぎ、本学が新たな地域づくりに貢献する。

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、人材バンク登録の周知が難しかった。

②SA (Student Assistant) の試験的運用を開始し、情報処理関係の授業で SA 1 名を派遣した。



## 2. 附属生駒幼稚園

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、行事の中止や延期、「新しい生活様式」の中で保育内容を工夫したりオンラインで保護者への対応を考えたりして取り組んできた。また、日々の園生活では、幼児の心身の健康管理を十分に配慮しながら進め、教職員で常に情報交換しながら話し合い取り組んだ実践である。

### 保育に関する事業

- 1) 子どもらしくのびのびと遊び、自分で考え、力いっぱい表現し、主体的に活動する幼児の姿をめざして
  - ・ひとりひとりが自分で動き出せるように“急がせないでゆっくりゆっくり”待つ保育と幼児理解の大切さを感じた。
  - ・日々の保育の中で子ども側に立って考えられる保育を進めてきた。保育の振り返りと指導計画の工夫に努めた。
  - ・my 週案の作成の徹底(自己管理)
    - 学年ごとの連携と見通しをもった指導計画（保育内容の充実に繋がってきた）
  - ・個人記録の充実と園生活における状況記録(発達、病気、怪我、出来事、他)
    - 速やかに事象を報告し、教職員で共通理解し、対応していくことの徹底に努めた。常に各学級の情報交換を実践した。(朝の会、会議等で報告)
  - ・特別な支援を要する子どもに応じた「個別の支援計画」を作成し保護者や専門機関と連携を図り指導に努める。
    - 各学年にフリー教員を配置し保育の補助をしていくことでひとりひとりに寄り添った関わりができた。
  - ・基本的生活習慣の実態把握と充実
    - “げんきな ならっ子”運動を家庭と共に取り組み、保護者の「幼児の生活リズム」についての意識を高め、学年別、発達段階に応じた指導を行った。
  - ・給食指導の在り方の再確認
    - マナー 清潔 準備片づけを学ばせる工夫（コロナ禍の中での食事の在り方等）
    - 発達段階に応じた箸での食事、正しい箸の持ち方の指導の工夫
  - ・家庭との連絡状況
    - コミュナビ、電話、送迎時など連絡は、こまめにするよう工夫をし、保護者との連携につなげた。何のための連絡かを意識して話すことを心掛け“子どもを真ん中に”を考える基本が、保護者にも伝わってきた。
- 2) より良い環境づくり
  - ・体を十分動かし、安心安全に遊べる環境整備
    - (遊具の点検と子ども達が十分に楽しんで遊べる環境の見直し)
    - 砂場の日よけ屋根 総合遊具の設置(古い遊具と取り換え) 移動遊具置き場の工夫 3歳部屋の大積み木購入等
  - ・子ども達にとって、小さな命の営みに触れる小動物の飼育を大切に考え、各クラス 1匹ずつ子どもと相談して飼い、世話をする。(子どもには無理のないよう衛生面に十分気を付け行う)かめ ハムスター モルモット めだか ザリガニ かたつむり等
    - 園全体・・・うさぎ2羽(飼育小屋を園庭に設置することで子ども達が遊びの中で自然にかかわる姿が見られるようになった)
  - ・季節感や、日本の節目の行事を大切に伝える工夫を行う
    - 5月の節句(五月人形飾り) プール開き中止 9月の節句(お月見飾り) 12月クリスマス(ツリー飾り) 1月正月(お鏡餅等) 3月の節句(雛飾り)等・・・コロナ禍の中で中止になる行事もあったが、場所を変えたり内容を工夫したりして行った。
  - ・保育室内外の環境の見直し
    - 各クラス及びトイレ・手洗い場等、園全体掃除と消毒の徹底。園庭に花壇や新園舎屋上に畑を作り身近

に自然に触れる環境を整える。定期的に子ども達と共に園庭や畑の除草、清掃を行い「みんなの幼稚園」の意識を高めるようにしてきた。

3) 幼児にとって豊かな経験のための行事と意味を教職員で確認しながら行った。

- ・誕生会・・・コロナ禍の中で状況に合わせ、全体でホールで行ったり各クラス保育室で行ったりして内容を工夫し実施した。
- ・遠足・・・コロナ禍の中で、実施できる場所を考え、下見を十分に行い検討しながら実施した。  
春・・・年中（大淵池公園）・年少園隣の公園（相模公園）・年長（中央公園）  
秋・・・年少、年中（生駒山上遊園地）年長（京都水族館）
- ・こどもの日の集い・七夕の集い・雛祭りの集い・・・各クラスそれぞれに工夫して行った。
- ・運動会・・・鹿ノ台中学校の校庭で行った。コロナ禍の中、保護者1名座席指定、その他感染予防を考慮し、全学年で行うことができた。各学年の競技や演技を見ていただき子ども達の成長の姿に喜びの音が聴かれた。
- ・作品展・・・昨年度よりは、展示場所を少し拡大し、空間を設けるなどの工夫を行った。各学年テーマを設け、取り組み成果を見ていただいた。それぞれの場所での工夫が見られ、保護者と共に楽しむことができた。各係では、反省することも出てきたが、来年度に繋がるよう更に、工夫をしていきたい。
- ・お泊まり保育(年長児 信貴山観光ホテル)  
昨年同様、コロナ禍の中での実施となったので事前に保護者アンケートを実施し、計画を立てたが新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。年長児にとって楽しみな行事であり、学年としての取り組みが子どもの成長に繋がる貴重な活動であったことから、「お楽しみ保育」として宿泊なしで保育内容の工夫をし、信貴山観光ホテルで10月に行った。子ども達にとって楽しい思い出の活動となった。
- ・お別れ遠足・・・大型観光バスに乗り「はしゃキッズ」で本園のみの参加で身体を十分に動かし遊ぶことができた。弁当は、佐保短大でとり、広い運動場で遊んだ。十分に活動できた一日となり「めっちゃ、楽しかった！」と子どもからの声が聴かれた。
- ・生活発表会・・・新型コロナウイルス感染対策の元で各クラス（8クラス）ごとに、保護者2名参加で行った。
- ・クリスマス会・・・初めに短時間で全体で行い、その後各クラスで楽しんだ。
- ・避難訓練・・・学期に1回行う。避難の仕方、「おはしも」を知らせる。避難場所の確認
- ・マラソン大会・チューリップ会等は、中止となった。

4) 特別活動（外部講師起用）の充実

- ・外部講師教室の見直しと充実に努めた。
    - ・年長、茶道教室(年4回)・・・畳の部屋での座り方やお茶の作法を学び、自分でもお茶をたておいしくいただいた。繰り返しの経験の中で茶道の部屋に入ると背筋を伸ばし今はどうすればよいか身についてきた。
    - ・体育指導(月1回)・サッカー(年間8回)・書き方教室（保育後希望者のみ）
    - ・年中・・・体育指導(月1回)　・年少・・・体育指導(月1回)
    - ・各学年共通・・・英語教室(週3回)
- 子ども達が自由感のある中で、自然に英語（英語を話す人）と接する環境、また、幼児期だからこそ子ども達が楽しみながら、自分と異なる言葉話す人に興味を示し、自ら動いてやってみようとする姿を大切に行っている。講師と園が連携をとり「英語を教える」ではなく、子どもの実態に沿って無理なく行ってきた。「グッドモーニング!」「メグ先生!」と自分から親しみをもち挨拶をしたり一緒に遊んだりして楽しく過ごす姿が見られてきた。今後、発達段階を考え、内容を工夫し、無理なく進めていきたい。

## 運営に関する事業

### 1) 安全対策について

- ・送迎のドライブスルーの際の安全管理の徹底  
無線機を使用することで、スムーズに連絡が取れ、時間短縮にもなっている。
- ・遊具点検の強化  
安全点検票作成し学期に1回、職員全員で点検を行う。総合遊具使用禁止
- ・災害時のバス位置確認や乗降時の様子確認のために、連絡方法として無線機で連絡をスムーズに行う。

### 2) 園内研修の実施

- ・教員の研修時間の確保  
毎朝の打ち合わせと共に子どもの姿を共有し、実践につなげた。(日々の積み重ねを大切に)  
保育内容の充実に向けて、子どもの見方、幼児期の発達の姿、教師の役割、幼稚園の役割等、基本の学びに取り組み、同時に年間指導計画、週案、保育振り返りを、学年ごとに主体的に取り組んだ。
- ・my 週案の作成と指導計画の見直し  
今日の子どもの生活から明日の保育を考え、経験させたいこと、配慮すべきことが見えてきたら、そのための環境を整える。毎日のすることを段階を追って実践し、記録していくことで自分の保育が見えてくる。
- ・教員研修の充実・保育内容の精選  
コロナ渦の中、家庭と連携をとり、子ども達が楽しめる保育計画や準備等に時間が取られたのが現状である。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、行事の在り方を日々職員間で共通理解し進めてきた。職員がそろって研修する時間の確保が難しかったが、様々な方面に配慮し行うことができた。また、園にとって大切な様々な行事の保育内容を検討しての実施は、子ども・先生・保護者にとって大変有意義な経験となり成果を上げるものとなった。

### 3) 各研修会参加

- ・新型コロナ感染拡大防止のため、状況に応じて中止になったりオンラインになったりして行われた。できる限り参加した。

## その他の事業

### 1) 預かり保育の実施と充実

家庭的な雰囲気大切にゆったりとした空間の中で、預かり担当教諭、異年齢の子ども達とふれあい楽しめるように環境を工夫し行った。保護者の就労や家庭の事情等の理由で預かり保護者支援に繋げている。

### 2) 家庭（保護者）との連携

- ・担任と連絡を密にする・・・ミュナビ、電話、手紙、家庭訪問等。
- ・園だより担任からの「クラスだより」、園長の「えがおのたね」を設け、子ども達の成長や子育てに今、大切にしたいこと等を保護者と共有する機会とした。
- ・新型コロナ感染状況を考慮しながら学期ごとの個人懇談会（希望者のみ）を行った。  
保護者と対面しての話し合いは、共に子育てしていく上でとても有意義であったことから来年度は、年に1回は全保護者との懇談を実施していきたい。

### 3) 地域との連携・交流

- ・地域の行事・・・夏祭りに鹿の台地域年長児和太鼓披露、春・夏年2回の地域清掃運動は中止となった。
- ・年2回推進委員会参加・・・保育園・小学校・中学校協力
- ・鹿ノ台いきいきホール・・・掲示物や作品展示物で参加

・鹿ノ台小学校との交流

感染状況を見ながら少しでも行いたいと思っていたが、自園の行事と重なり難しかった。特別支援関係では、入学前に子どもの様子について校長先生と保護者が話ができたり入学する子どもについて教員同士が話し合ったりして交流することができ互恵性があった。

・資源回収の協力

・農園見学・・・チューリップ鑑賞（園からは中止、各家庭で）

・芋ほり体験地域団体E C O K Aグループ（年中児）思いきり身体を動かし楽しい芋ほりの経験となった。また、地域の方々のお世話になり優しさや温かさを感じ子ども達にとって良い体験となった。

4) 各市との連携協力体制強化

- ・生駒市、奈良市各市子どもサポートセンターと交流し、様々な事象を共有しながら保育に繋げた。
- ・生駒市「赤ちゃんの駅」継続。
- ・生駒市私立公立幼稚園保育園認定こども園合同園長会会議及び研修会に参加

5) 奈良佐保短期大学との連携

- ・教育実習・・・実習1回生、2回生 見学実習
- ・地域こども学科フィールド授業参加。体育指導は、広い体育館で実施。保護者参観実施

6) 施設・設備等の修理・設置・充実

- ・新園舎壁面改装工事・新園舎保育室壁面工事・園庭木製総合遊具撤去・総合遊具新しく設置・砂場日よけテント設置
- ・新園舎入口に雨よけの屋根取り付け・うさぎの飼育小屋設置・2回ホールの漏電工事

7) 各補助金・助成金の積極的申請

- ・奈良県幼児教育の質の向上の為の緊急環境整備事業「新型コロナウイルス感染症対策」補助金
- ・令和3年度より新制度へ移行。補助金は、生駒市の加算適用申請書に基づき各市町村（生駒市、奈良市、木津川市、精華町）から毎月補助金をもらう。
- ・生駒市幼年消防クラブ助成金・・・新型コロナのため中止

8) 募集について

- ・入園説明会内容の工夫に加え、ホームページの充実に着手。
- ・コロナ感染拡大防止のため、多数の制約の中で説明会を行う。

その他

- 1) 特別支援を要する園児については、各発達支援施設専門機関との連携の必要性を感じ、効果を実感できた。
- 2) 衛生管理の見直し
  - ・コロナ感染拡大防止のためすべてにおいて消毒の継続と徹底
  - 保護者の協力により、消毒液の無制限使用が可能となる。
- 3) 各進学小学校との連携

出来る限りの参加継続である。新1年生授業参観・幼保小連絡会・入学予定者懇談会に参加（電話等で連絡したり小学校の先生が保育参観等各小学校に応じる）
- 4) 消防関係
  - ・消防設備立入検査実施
- 5) 4月当初よりバス業務は委託を継続、徹底して安全を確保

### 3. 認定こども園附属河内長野幼稚園

コロナ禍 2 年目も 4 月新年度早々、まん延防止等重点措置となり、続いて 3 回目の緊急事態宣言が発出され解除後も再びまん延防止等重点措置。3 年度もコロナに振り回された一年となったが、本来の子ども達の育ちに少しでも近いものと思い、職員みんなで相談し工夫をした一年でもあった。制限のある中、やりたいこと、何が一番大切かの見極めが本当に難しいと思った一年でもあった。

#### 保育に関する事業

- (1) 「あそび」はこころとからだを育てる。子どもは教えられて育つのではなく自ら学び育つものであるという考えを基に、目先の知識の詰め込みや教え込みではなく子どもたちの自然でたくましい育ちを助けるよう、たっぷり とことん遊びこめる環境を整え援助をしたが限界があった。
- (2) 親子で「眠育」は昨年度に続き中止。
- (3) 絵画製作（月 1 回）や体育教室（月 2 回）、英語遊び（月 2 回年中・長のみ）の活動も専門の講師の下、ますます充実し講演会や参観などを通して保護者の深い理解を得た。

#### 運営に関する事業

- (1) 安全対策について
  - ・引き続き万が一、不審者の外部からの侵入などの不測の事態に備えて教職員の訓練を行い、行事の際には保護者の協力を得て園内のパトロールを実施していた。
  - ・遊具の点検は年に 2 回業者に依頼。園の教員では学期毎に点検を行った。
- (2) AED の操作方法や手順、心肺蘇生法などの確認。
- (3) 教員のスキルアップ
  - (ア) 外部より専門の講師を招いて絵画製作の研修を行い、クラス毎に研究発表をし、意見の交換や評価をして保育の質の向上を図った。
  - (イ) 外部より専門の先生を招いて体育・運動あそび、ゲームの研修をした。
  - (ウ) 大阪府私立幼稚園連盟、河内長野市私立幼稚園連絡協議会の教員研修は中止  
◎zoom やオンデマンド配信の研修がほとんどであった。好きな時間に受講できるオンデマンドにより、各個人による多くの学びを得ることができた。
- (4) 7 月 3 日（土）大阪大谷大学あべのハルカスキャンパスに於いて大阪私立幼稚園連盟南大阪支部の就職フェアに参加（5 月 15 日→5 月 22 日→6 月 5 日から延期）
- (5) コロナ対策について  
園としてとる対策を随時、保護者に手紙やアプリで知らせた。

#### その他の事業

- (1) 預かり保育
  - ・月～金曜日の早朝預かり（7：30～8：00）の実施。
  - ・土曜日預かりの早朝預かり（8：00～9：00）の実施。
- (2) 2 号こどもの保育の充実
  - ・1 号こども降園後の 2 号こどもの心的援助と環境の整備。

- (3) 子育て支援活動推進事業の実施 (年間を通して数回のみの実施となった)
- ・昨年度に続き、満2歳～就園までの子どもとお母さんを対象に未就園「たんぼぼ」の実施を週1回行った。遊びの場としてだけでなく、子どもやお母さんの友達作り、子育ての悩みや相談などお母さんの話を聴く場としても広く開放した。
- (4) ・月に1回、年齢に関係なく地域の未就園児を対象に約1時間、園庭を開放した。同じ時間に絵本コーナーを開放し、卒園児保護者のボランティアによる絵本の読み聞かせや貸し出しの「さほっこ文庫」を開設した。「さほっこ文庫」は天候に左右されることなく実施できるので、利用しやすいと好評を得ている。  
(令和3年度「園庭開放」は年間を通して数回のみ実施。「さほっこ文庫」は中止)
- ・2歳の一時的預かり保育の実施。(定員6名。1歳10ヶ月頃からも状況に応じて可能とした。)(年間を通して数回のみの実施となった)
- (5) 毎月行っている参観は一年を通じて中止。(予定はしていたが緊急事態宣言やまん延防止発出のため実施できなかった)
- (6) PTA(佐保の会)活動もほとんど行えず、行事毎に募っている保護者ボランティアの募集もできなかった。
- (7) 年長児の鍵盤ハーモニカは一年を通じて中止。
- (8) 昨年度に続き、春(長野公園)と秋(和歌山県立自然博物館)の園外保育は中止。近くの公園に歩いて行った。
- (9) コロナ前に実施していた年長児の宿泊保育は昨年度に続き中止。内容を変えて7月20日終業式後にデイキャンプを行った。
- (10) さほっこなつまつりは園外に向けての呼びかけはなし。飲食やゲーム、ワークショップはなし。内容を大きく変えて在園児のみで園内だけで行った。
- (11) 昨年度中止のプール遊びは実施。
- (12) 夏休みの15日間を自由登園とし、「わんぱく」と名付けて無料で縦割りの活動 (昨年度に続き中止)
- (13) 市内9園が所属する河内長野私立幼稚園連絡協議会開催の幼稚園まつり。ラプリーホールにて人形劇を観賞。 (昨年度に続き中止)
- (14) 10月 加賀田フェスティバルに職員が参加し絵本の読み聞かせ。 (昨年度に続き中止)
- (15) 10月 加賀田ふれあい交流会 (昨年度に続き中止)
- (16) 10月22日運動会。昨年度に続き土曜や日曜から平日開催とし、時短のためプログラムの見直し。観覧の人数制限、検温、消毒、マスク着用等、コロナ対策をとり実施。
- (17) 5月24日じゃがいもほり、11月1日さつまいもほり(くろまろファーム)、11月26日みかんやま(奥畑みかん園)で収穫体験

- (18) 11月20日(土)作品展。コロナ前、市の市民交流センターのイベントホールを借りて開催してきたが、作品の搬入、展示、搬出に保護者ボランティアが必要不可欠であるため、昨年度に続き分散。園で時間をずらして各クラスごとに開催。
- (19) 12月2日移動動物園。
- (20) クリスマス会、お別れパーティーの人形劇鑑賞 (昨年度に続き中止)
- (21) おもちつき (昨年度に続き中止)
- (22) 2月19日、20日開催予定だった市内の小中学校と幼稚園の絵画活動の発表の場として開催の「キッズアート展」 (昨年度に続き中止)
- (23) 2月20日生活発表会時短のためプログラムの見直し、時間をずらして各クラスごとに開催。総入れ替え制。観客席の間隔を大きくとる、観覧の人数制限、検温、消毒、マスク着用等、コロナ対策をとり実施。
- (24) 3月15日卒園式 在園児、短大や地域の方等の来賓なし。参列者は卒園児保護者2名に限定。時短のため内容を見直して実施した。
- (25) 保護者対象のフラワーアレンジメント (昨年度に続き中止)
- (26) 保育終了後に空き保育室を利用したの課外活動を、引き続き体育教室、ピアノ教室、英語遊びを実施。
- (27) 河内長野市子育て支援事業「赤ちゃんの駅」協力園に登録

#### 幼稚園評価の実施

保護者アンケートを行ない、その結果を施設関係者評価として学園の評価委員5名の先生方をお願いした。(5月13日現在、評価委員に依頼中)

※中止になったものはコロナ感染拡大防止対策のためであり、大阪府や河内長野市からの要請を受けて、市内の小中学校、幼稚園、認定こども園で連携を取り話し合った上で決定しました。

※昨年度に続き対面での園長会、支部会は行わず全てオンラインで行われました。  
市内の園長会は毎月、支部会は約二か月に一回行い、情報共有しました。

#### 4. 附属倉敷幼稚園

##### 保育に関する事業

(ア) コロナ禍であっても稲の栽培を行い、「米の収穫後の藁でお飾りを作り、どんど焼きで燃やし、その灰をじやがいもの種いもに擦り付けて除菌後、いもを植える」という一連の作業を通して命の繋がりを知らせている。他にも花・野菜の栽培、小動物の世話等を通して、自然との関わりの中で命の尊さについて知らせると共に、毎月行われる誕生会でも「生んでくださって有難う」「育ててくださって有難う」の言葉を園児から保護者に伝えるように知らせていった。

また、「ひとを大切に、ものを大切に」、ひいては命を大切に、そして全てに感謝の気持ちを抱くように伝えていった。

(イ) 「心と心のキャッチボール」を合言葉に円滑な望ましい人間関係の育成に努めた。

(ウ) 体育遊び教室（月2回）、モンテッソーリ活動（週1回）、リトミック活動（月2回）、英語遊び活動（月1回）等、非常勤講師の指導の下での遊びも充実させた。

特に、モンテッソーリ活動を充実させることで、園児の自主性を確立させ、集中力を養うことに貢献した。

(エ) 年中児を対象に、「歯科から見た食育～お口の機能、育っていますか？～」をテーマに園歯科医により、月1回ずつ実際の食べ物を口にしながら体験活動の指導を受ける予定であったが、今年度は11月に1回のみ“五味五感”についての指導を受けた。

(オ) 例年だと、実際に本物に触れ、体験を通していろいろなことを知り学ぶための数多くの行事や活動に取り組むところだったが、コロナ禍のため、できるだけ工夫しながら行いながらも去年に引き続き、かなりの制約を受けた。

##### 運営に関する事業

###### 教員のスキルアップ

(ア) 昨年は岡山県私立幼稚園連盟と倉敷市私立幼稚園協会主催の、講演・実践・グループ協議等を中心に多くの研修・研究が中止になったが、今年度はどの研修もリモート会議形式にて、園内で講義を受け、レポートを提出するという方式で教員の資質向上を図った。

(イ) 全日私幼連から出されている教員の資質向上のための俯瞰図にのっとり、県私幼連・市私幼協・県及び市主催の各種研修会も参加する予定であったが、今年度もコロナ拡大防止のため対面研修はできなかったが、昨年とは違って、いろいろなIT機器を使い工夫しながら研修を受けた。

(ウ) 例年は8月末に、中国地区私立幼稚園教員研修会（令和3年度は山口大会）が開催され、講演会・研究発表に参加する予定であったが、山口県私立幼稚園連盟の尽力により、数日間の間自由にできる時間内でzoomによる研修を園内で受けた。

(エ) 岡山県私幼連主催による令和3年度全体教員研修、及び主任研修、中堅研修は夏休みの一定の期間内でキャストリーによる動画配信により研修を受けた

(オ) 6月の県私幼連の総会・研修会、11月の県私幼連開催の公開保育は、形を変えて開催された。特に秋の公開保育は専門のカメラマンによる子ども達の遊びの録画を見ながらパソコンにて研修を受け、各園の教員は、皆、刺激を受け、良い研修となった。



(カ) 特別支援を必要とする園児に対し療育施設の先生の訪問を受け園生活が、そして就学に向けての接続がスムーズになされるように努めた。

(キ) 毎日の終礼を中心にその日の保育実践や子どもの様子について園内研修を進め、各教員のコミュニケーションを密にした。特に、コロナ禍における行事変更や活動の見直し等、教員全体で充分話し合いを行い、予定変更については直ちに保護者に一斉メール送信をすることで便宜や連携を図った。

## その他の事業

### (1) 預かり保育の実施

コロナ禍でもできる限り、預かり保育（毎日、保育終了後～17：00まで）を継続して行い、長期休業（夏休み・冬休み・春休み）中の預かり保育（8：30～17：00）も行い、保護者のニーズに添った。

### (2) 子育て支援活動推進事業の実施

県より支援を受け、未就園児の幼児クラブを月1回継続して行い、「子育て支援活動推進事業」に取り組み多くの未就園児親子に喜ばれている。但し、1月・2月については岡山県まん延防止措置がとられたため、やむなく中止とした。

### (3) ボランティア組織

P. T. A 役員以外に、今年度も保護者からボランティアを募り、各種園行事への支援をお願いするところだったが、コロナ禍のため、教員が行った。しかし1学期末の夕涼み会はサマースクールと名を変え、PTA役員のアイデアで楽しく開催され、子ども達も大満足であった。

8月末のP. T. A 会員による、園内外の清掃、団地の駐車場・通学路の清掃は主に教員が行い、保護者には2学期に入り、登降園時を利用して草刈り他をお願いした。

### (4) 倉敷市私幼協主催第42回くらしきキンダーフェスティバル

5月に開催の予定だった倉敷市私幼協主催第42回くらしきキンダーフェスティバルは、コロナ禍のため密を避けるため昨年に引き続き中止となった。市内17園の5歳児900名以上の全園児とその保護者・教職員が集い、皆で楽しく半日を過ごし、かけっこや他園とのふれあい競技の他に、広い球場に色とりどりのパラバルーンの花を咲かせる予定であったが、残念である

### (5) 年長児のお泊り保育

昨年に引き続き、8月末に国立吉備少年自然の家にて、過去何十年と続いている年長児のお泊り保育を予定していたが中止となり、代わって秋の遠足で園バスを利用して施設探検や遊具で遊んだ。他にもPTAの主催でサマースクールが行われ、魚釣り・輪投げ等のいろいろなゲームのお店屋さんの体験を楽しんだ。

### (6) 実習等の受け入れ

6月と秋に地元の大学生の実習を受け入れた。

11月には奈良佐保短期大学より学生を受け入れ、共に研修や遊びを楽しむ予定であったが2年続けての中止となり、残念であった。

### (7) 音楽の会

秋に親子音楽会を開く予定であったが、今回も保護者の招待は無しで全園児で弦楽五重奏の演奏を聴き、感

性の育ちの一助とした。

(8) 人形劇鑑賞

令和4年2月に地元の短大生(20名)が演じる迫力のある人形劇を鑑賞する予定であったが、新型コロナまん延防止重点措置が行われたため、残念ながら中止となった。

(9) 老人ホーム訪問

例年、春・秋と年2回、特別養護老人ホームに年長児が訪問し、手遊び・歌等、共に遊ぶことで老人から「命の大切さ・尊さ」を知ると共に、自分は他人の役に立っているという自己有用感、自己肯定感を体験するところであったが、2年続けて、今年度も中止となり、貴重な体験をすることができず、誠に残念であった。代表で園長が1学期には年長児作成のペンダントと畑で育てた玉ねぎを、2学期末には年長児がさつまいものついで作った大きなリースを届けて施設長に手渡し、喜んでいただいた。「来年にはお会いしましょう」との言葉をいただいた。

(10) その他

季節の行事の他、消防署・新幹線、オープンスクールで使用する材料のためにスーパーマーケットに行く等の園外社会見学に参加することで社会に触れ、その一員としての自覚が生まれるように促す体験をする予定であったが、全て中止になった。取りわけ、地元大原美術館への年5回伺う見学では「世界の宝物」に接し、感性を育てると共に、見学マナーを身に付けることができなかったが、美術館さんから12月に1回のみのお招待を受け、世界の宝物に触れることができ、貴重な体験をした。

年中児の時計屋見学は「時の記念日」から随分と遅れた11月に実施、年長児の月を観る会も11月に親子で倉敷天文台に行き、大型天体望遠鏡で月や木星、土星を観て感動し、貴重な体験をすることができた。

(11) 避難のけいこ

月1回の避難のけいこを通して、火事・地震・不審者から身を守る訓練を積み重ねており、幼児とは思えないくらい素早く避難できた。とりわけ令和4年1月には、昨年に引き続き、倉敷警察署OBの2名の方が不審者への対応の指導に来園してくださり、実際にサスマタを使用し、職員が実体験をした後、年長児が細かく注意事項を聞いた。

(12) お茶会他

2月の年長児対象のお茶会では、佐保会岡山県支部会員を講師に招き開催の予定であったが、今年度も新型コロナまん延防止措置のため、中止となった。

他に卒業式の前の準備等、ボランティアとして佐保会員には常にお世話になっている。

(13) PTA 会員有志によるコーラス部

PTA 会員有志によるコーラス部「さほ×さほ smile」(部員約40名)の美しい歌声を、PTA 総会、誕生会等で聴いた。例年1月にある倉敷市私幼協PTA音楽交流会は今回も中止で、病院や老人ホームの慰問も中止となった。

原則、月に3回本園遊戯室にてマスク着用で練習に励んでいるが、新型コロナ禍で思うように練習ははかどらないのが現状である。

(14) その他

コロナ禍でも密を避けるため、クラスを2分して保育参観を行ったり、運動会・生活発表会も参加者を制限し、座席を指定する等、いろいろと工夫して行事を行った。

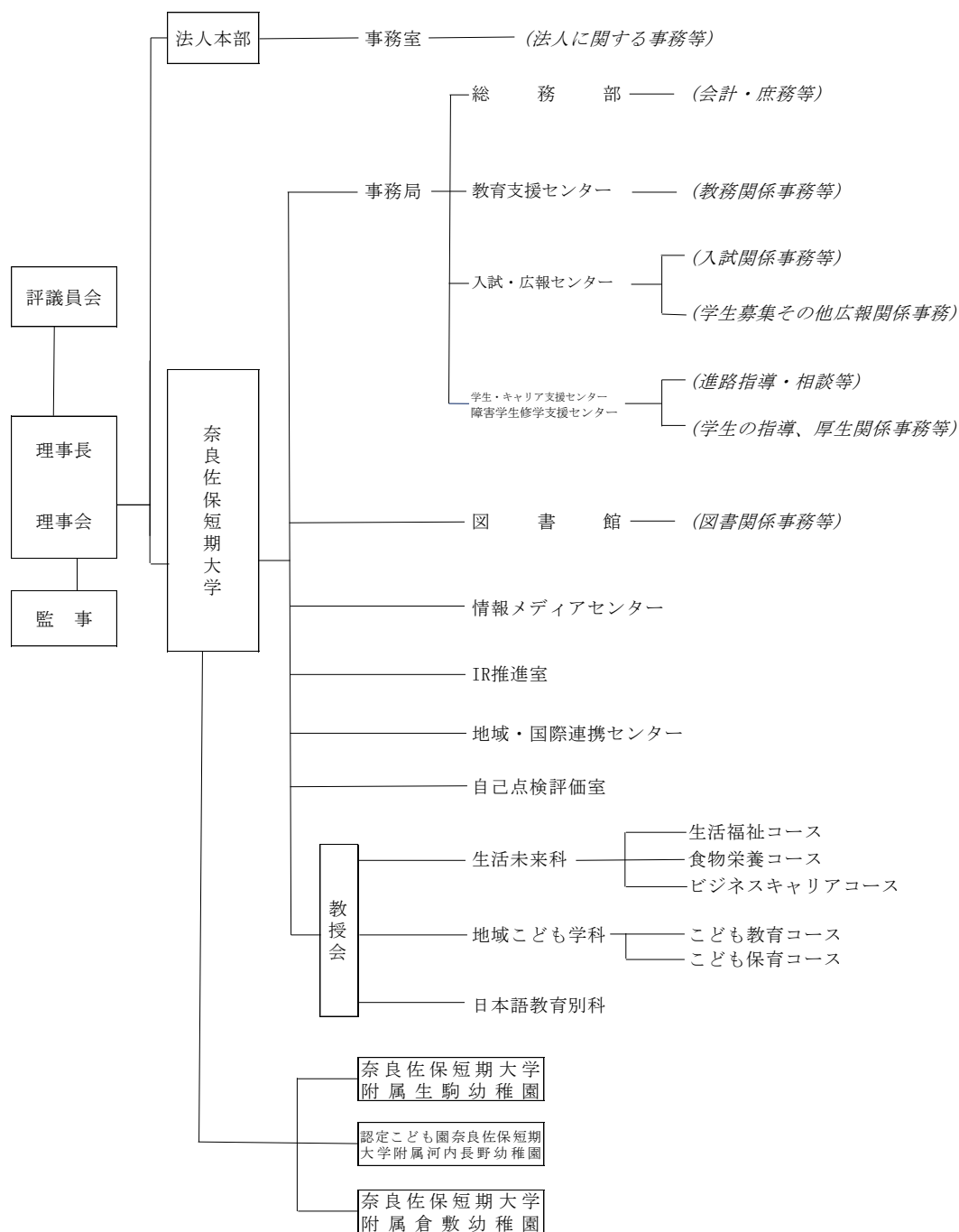
毎年、毎月行う行事もコロナまん延拡大防止策を取りながら行い、子ども達にできるだけ多くの体験ができ

るように留意した。

年度末のお別れ会では、恒例のカレー会食はできなかったが、事前に準備をしていたプレゼントを渡したり、歌の交換をして年長児とのお別れを惜しんだ。

一つでも楽しい思い出を作って年長児を卒業させたいという願いの下、PTA役員もバザーに代わるものとして、常とは別に大々的な廃品回収の日を年2回設けて実施し、その収益で数多くの絵本や本棚をプレゼントしていただいた。今年度も昨年度に引き続き、職員、保護者、皆で力と知恵を出し合って考えてきた1年であった。この経験を是非、次年度へと繋げていきたいと思いながら新型コロナウイルスの終息を願うのみである。

6. 運営・組織機構



(※ 斜体文字は主たる業務・分掌をしめす)